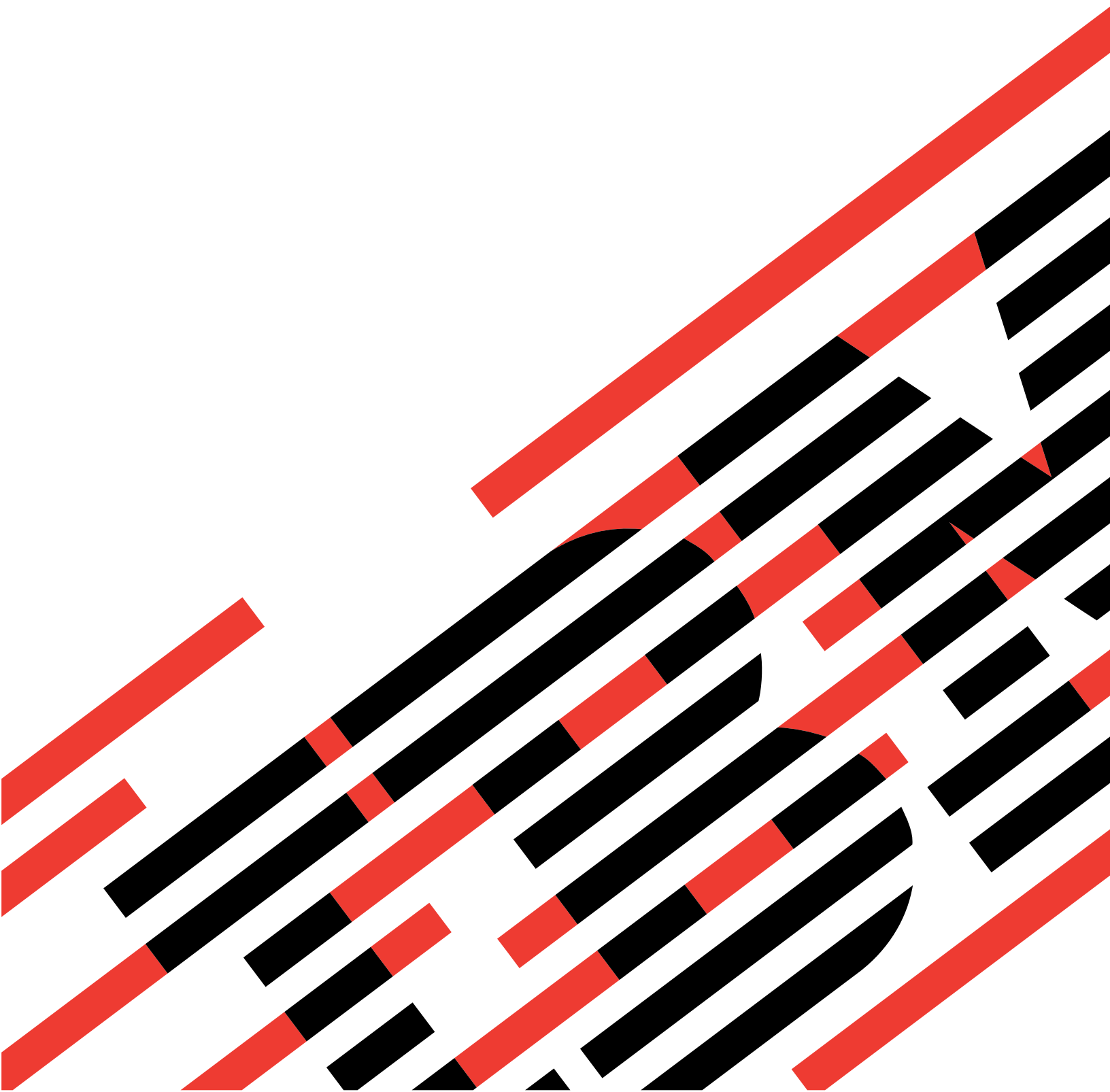


IBM

@server

マネージメント・セントラル





@server

マネージメント・セントラル

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

目次

第 1 章 マネージメント・セントラル	1
第 2 章 マネージメント・セントラル V5R2 の新機能	3
新機能	3
既存の機能の拡張	3
新機能または変更点を見分ける方法	4
拡張ジョブ・スケジューラー V5R2 の新機能	5
第 3 章 トピックの印刷	7
第 4 章 マネージメント・セントラルのスタートアップ	9
マネージメント・セントラルのインストールとマネージメント・セントラルへのアクセス	9
セントラル・システムのセットアップ	10
エンドポイント・システムのマネージメント・セントラル・ネットワークへの追加	11
マネージメント・セントラル・ネットワークでのシステム・グループの作成	12
第 5 章 マネージメント・セントラルを使った作業	15
マネージメント・セントラルによるコマンドの実行	16
マネージメント・セントラルによるユーザーおよびグループの管理	18
インベントリーでの作業	20
インベントリーの表示	21
インベントリーに関してできること	21
インベントリーでのアクションの実行	22
マネージメント・セントラルのユーザーおよびグループ・インベントリーの検索	22
モニターを使った作業	23
新しいモニターの作成	23
モニターのメトリックの選択	25
モニターのしきい値の指定	27
モニターの収集間隔の指定	28
モニターのコマンドの実行	29
モニターのイベントのロギング	30
モニターのしきい値およびアクションの適用	30
モニター結果の表示	30
モニターのトリガーされたしきい値のリセット	31
イベント・ログ	32
マネージメント・セントラルによるオブジェクトのパッケージングと送信	32
マネージメント・セントラルの他のユーザーとの共用	33
共用とマネージメント・セントラルを使用してできること	34
マネージメント・セントラル・スケジューラーによるタスクまたはジョブのスケジューリング	35
マネージメント・セントラル・スケジューラー	36
拡張ジョブ・スケジューラー	37
拡張ジョブ・スケジューラーのインストール	38
拡張ジョブ・スケジューラーのカスタマイズ	38
拡張ジョブ・スケジューラーの一般プロパティの割り当て	39
拡張ジョブ・スケジューラー用のアプリケーション / ジョブ制御の作成と処理	40
拡張ジョブ・スケジューラーの予定表のセットアップ	41
拡張ジョブ・スケジューラーの休日予定表のセットアップ	41
拡張ジョブ・スケジューラーのライブラリー・リストの処理	42
拡張ジョブ・スケジューラーのコマンド変数の処理	43

拡張ジョブ・スケジューラーによるジョブのスケジュール	43
ジョブの作成およびスケジュール	44
ジョブ・グループの作成およびスケジュール	44
一時的にスケジュールされるジョブの作成	44
事前定義スケジュールの作成	45
ジョブの従属関係	46
拡張ジョブ・スケジューラーのジョブ活動のモニター	47
拡張ジョブ・スケジューラーによるメッセージのモニター	48
拡張ジョブ・スケジューラーのトラブルシューティング	49
拡張ジョブ・スケジューラーの OS/400 スケジューラーとの比較	50
第 6 章 マネージメント・セントラルの関連情報	53

第 1 章 マネージメント・セントラル

システムの運用管理作業をシンプルに、容易に、短時間に、そして反復作業をもっと少ないものにした場合、また、サーバー所有による総合的なトータル・コストを下げたい場合には、ぜひともマネージメント・セントラルを考慮なさってください! マネージメント・セントラルは、1 つ以上のサーバーで同時に複数のシステム管理タスクの実行を可能にするテクノロジーを提供します。

マネージメント・セントラルは使い勝手の良い一連のシステム管理機能を集めたものであり、基本オペレーティング・システム (OS/400) の一部です。マネージメント・セントラルを使えば、1 つ以上の AS/400 システムを 1 つのセントラル・システムから管理することができます。セットアップの方法は簡単で、まずセントラル・システムとして使用するサーバーを選択し、あとはご自分のマネージメント・セントラル・ネットワークにエンドポイント・システムを追加していただくだけです。類似したエンドポイント・システムや互いに関連するエンドポイント・システムをまとめてグループを作成すれば、AS/400 システムの管理とモニターはさらに容易になります。これで、さまざまな通信はセントラル・システムによって処理されるようになります。スケジューリングや不在オペレーションといったオプションも利用可能です。マネージメント・セントラルが、それぞれの環境の必要性に応じる点でスケーラブルかつフレキシブルであり、しかも操作が容易であることにお気づきになることでしょう。

iSeries ナビゲーター (ワイヤレス対応) により、管理者はマネージメント・セントラルに、より柔軟にアクセスして対話できます。iSeries ナビゲーター (ワイヤレス対応) で使用するデバイスについてのヒント、必要な要素をインストールして構成する方法、および機能に関する包括的な概説については、iSeries ナビゲーター (ワイヤレス対応) の概説を参照してください。

マネージメント・セントラルの柔軟性と機能を最大限に活用するには、『新機能』を参照してください。

新機能

最新のリリースの新機能について調べてください。

印刷

このトピックおよび他の関連するトピックの PDF 版をダウンロードして印刷します。

マネージメント・セントラルのスタートアップ


マネージメント・セントラルを使ってみましょう! マネージメント・セントラルを最大限に活用するには、ビジネス環境にとって意味のある仕方ですセントラル・システムおよびエンドポイント・システムをセットアップしてください。

マネージメント・セントラルを使った作業

サーバー管理タスク (修正の管理、パフォーマンスのモニター、ネットワーク内の 1 つ以上のサーバーでのユーザーおよびグループの管理など) を合理化するのに、マネージメント・セントラルを役立てることのできるあらゆる方法を見出してください。

第 2 章 マネージメント・セントラル V5R2 の新機能

マネージメント・セントラルのトピックには、iSeries ナビゲーターのマネージメント・セントラルの機能に固有の情報が含まれています。それらは、複数の iSeries および AS/400 サーバーを効率的に管理するために必要な情報です。

それぞれの OS/400 のリリースで利用可能な機能を調べるには、iSeries Navigator web site  を確認してください。

▶ V5R2 では、ネットワークでサーバーを管理する新しい方法および改良した方法をマネージメント・セントラルは提供します。

新機能

- **企業間取引 (B2B) 活動モニター**

構成済みの Connect for iSeries のようなアプリケーションがある場合、企業間取引 (B2B) 活動モニターを使用して企業間取引 (B2B) トランザクションをモニターできます。活動状態にあるトランザクションのグラフを何度も表示できますし、トリガーしきい値に達した時に自動的にコマンドを実行することもできます。特定のトランザクションを検索して表示できますし、この特定のトランザクションの詳細なステップの棒グラフを表示できます。

- **ファイル・モニター**

ファイル・モニターを使用して、選択されたファイルが変更された場合に通知できます。または、指定されたサイズかテキスト・ストリングのファイルをモニターできます。

- **日時の同期化**

V5R1 では、「マネージメント・セントラルのシステム値の比較および更新 (Management Central's Compare and Update System Values)」ダイアログを使用して、iSeries サーバーのネットワークでシステム値を比較更新できました。今後、iSeries サーバーのネットワークでシステム値の日時を時間帯の違いを考慮に入れて同期化できます。最も正確な日時の値を持つモデル・システムを簡単に選択し、それからそのシステムを使用して 1 つ以上のエンドポイント・システムまたはシステム・グループを更新します。

既存の機能の拡張

- **iSeries for Wireless** (これまではマネージメント・セントラル - パーベイシブとして知られる)

インターネット電話または携帯情報端末 (PDA) から、複数の iSeries サーバーを管理できますし、ファイル、ジョブ、メッセージ、およびシステム・パフォーマンスに対するモニターを使った作業もできます。さらに複数の iSeries サーバーでのコマンドの実行、および統合 xSeries サーバーを使った作業が可能です。詳細は、iSeries ナビゲーター (ワイヤレス対応) の概説トピックを参照してください。

- **ユーザーおよびグループ**

あるシステムのユーザーおよびグループを、複数のエンドポイント・システムまたはシステム・グループに送信する場合、任意のエンタープライズ ID マップ (EIM) アソシエーションはユーザーまたはグループの他の属性と共に送信されます。EIM アソシエーションは、ソース・システムおよびターゲット・システムが同じ EIM ドメインにある場合にのみ送信されます。

- **パッケージ・プロダクト**

定義されたプロダクトを作成してインストールする場合、すべてのプロダクトおよび固定オブジェクトに対してデジタル署名ができるようになりました。それにより、定義したプロダクトのファイルを保

護できます。さらにプロダクトを作成する際にライセンス文書を組み込むこともできます。このようにすると、ユーザーはプロダクトをインストールする前にこのライセンス条件に同意する必要があります。

• 収集サービス

新規のカテゴリには、IBM 定義済みトランザクションではなく、アプリケーション定義済みトランザクションのデータが含まれます。このカテゴリを使用するには、開始トランザクション (QYPESTRT、qypeStartTransaction) API および終了トランザクション (QYPEENDT、qypeEndTransaction) API を使用してトランザクションを定義することが必要です。

また収集サービスの 1 つ以上のコレクター定義に独自のカテゴリを追加することもできます。登録コレクター・データ・カテゴリ (QypsRegCollectorDataCategory) API を使用します。

• システム・モニター

システム・モニター・メトリックには、Point-to-Point プロトコルに関連した情報が含まれます。いくつかのメトリックが、CPU 稼働率プロパティに追加されました。ファイル・システム、ストリーム・ファイル、ジャーナル操作、およびカウンター・セットに関する、新しいメトリックです。

• インベントリ

ネットワーク属性、サービス属性、および連絡先情報、ハードウェア、ソフトウェア、修正、システム値、およびユーザーやグループのインベントリを収集できるようになりました。加えて、修正インベントリのサポートが以下のように拡張されました。



- 「比較更新 (Compare and Update)」ウィザードを使用して、欠落している修正を個別に選択したり、選択解除することができます。この機能強化によって、保管すべきファイルが見当たらない修正によって更新してしまうことがないようにすることができます。
- 「比較更新 (Compare and Update)」ウィザードを使用して、比較更新を実行するように、または更新だけを実行するよう選択できます。この機能強化により、比較結果を表示せずに、モデル・システムから直接ターゲット・システムを更新できます。
- 300 以上の修正を配布できます。
- 修正インベントリを収集する場合、修正グループ・インベントリも収集できます。今後は修正グループを使用して、複数のシステムで修正に加え、修正グループそのものも管理できるようになりました。
- マネージメント・セントラル・プロパティでは、修正データに変更が加えられた場合にのみ修正を収集するのか、または先回の収集以来変更が加えられていない場合でも修正を収集するのかを指定できます。この設定は、必ず収集される修正グループ・データの収集には影響ありません。



• 拡張ジョブ・スケジューラー

この別個のライセンス・プログラムではジョブの新しいスケジューリング方法および改良されたスケジューリング方法、また iSeries ナビゲーターからジョブにアクセスする際の機能強化が備えられています。詳細は、拡張ジョブ・スケジューラーの新機能を参照してください。

新機能または変更点を見分ける方法

技術的に変更された箇所を見分けるには、以下の情報を用いてください。

- 新しい情報または変更された情報が始まる箇所に、 が付けられています。
- 新しい情報または変更された情報が終わる箇所に、 が付けられています。

このリリースでの新機能または変更点に関する他の情報を調べるには、プログラム資料説明書  を参照してください。 

拡張ジョブ・スケジューラー V5R2 の新機能

V5R2 の拡張ジョブ・スケジューラーでは、ジョブの新しいスケジュール方法および改良されたスケジュール方法、また iSeries ナビゲーターからジョブにアクセスする際の機能強化が備えられています。

- **事前定義スケジュール**

ジョブをスケジュールする、または休日予定表の例外日を計算するのに必要な情報を含むスケジュールを作成できます。

- **メッセージのモニター**

ジョブのコマンド・リスト内の任意のコマンドに対するメッセージ ID をモニター用に入力できます。

- **結合されたアプリケーションおよびジョブ制御**

iSeries ナビゲーターでは、アプリケーションおよびジョブ制御のタブは結合されました。新規アプリケーションを追加すると、ジョブ制御の情報を更新できます。

- **ジョブ権限**

DSPJOBJS コマンドを使用して、ジョブ権限をジョブの詳細情報と共に印刷できます。CHGAUTJS コマンドの変更により、1 つ以上のジョブの権限を多くの方法でグローバルに変更できるようになりました。

- **開始および終了コマンドの指定**

一時的なスケジュール済みジョブを発行する場合、SBMJOBJS コマンドによって開始および終了コマンドの順序を指定できます。

- **スケジュール日の増加**

ジョブをスケジュールする月間の日数および年間の日付は、30 に増えました。これまでは、スケジュール済みジョブはある年の特定の日付、毎年特定の日付、および毎月の日数は最大 13 日でした。今後は、「**選択された日付 (On selected dates)**」として 30 日まで、「**年間 (Yearly)**」に 30 日まで、「**月間 (Monthly)**」に 30 日まで指定できます。13 日付または 13 日以上を選択したジョブは、iSeries ナビゲーターを使用してのみ変更できます。

- **休日日付**

休日日付は、iSeries ナビゲーターのスケジューリング予定表で赤線の囲みで表示されます。

第 3 章 トピックの印刷

PDF 版をダウンロードし、表示するには、**マネージメント・セントラル** (約 656 KB、62 ページ) を選択します。

そこでのトピックでは、エンドポイント・システムとシステム・グループの**マネージメント・セントラル**のネットワークをセットアップする方法と、様々なタスクを実行する方法を説明しています。また、次のような、**マネージメント・セントラル**を使用してサーバー管理作業を合理化できるあらゆる方法についての情報も含まれています。



- ユーザーおよびグループの管理
- インベントリーとパフォーマンス・データを収集する
- システム値の管理
- オブジェクトのパッケージと送信
- コマンドの実行
- タスクまたはジョブをスケジュールする

これらの関連するトピックを表示またはダウンロードできます。

- **パフォーマンス** (約 940 KB、70 ページ) には以下のトピックが含まれています。
 - 収集サービス
 - システム・モニター、ジョブ・モニター、メッセージ・モニター、企業間取引活動モニター、ファイル・モニター
- **ソフトウェアおよびライセンス・プログラムの管理** (約 1.00 MB、86 ページ) には以下のトピックが含まれています。
 - 修正 (Fixes)
 - プロダクトのパッケージ (Product packaging)
 - ライセンス交付 (Licensing)

その他の情報

また、次のレッドブックの PDF も、いずれも表示または印刷することができます。


- **Managing AS/400 V4R4 with iSeries Navigator**  (約 500 ページ)
- **Management Central: A Smart Way to Manage AS/400 Systems**  (約 240 ページ)

PDF ファイルの保管

PDF を表示用または印刷用の PDF ファイルを Netscape Navigator からワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. ブラウザーで PDF を開く (上記のリンクをクリックする)。
2. ブラウザーのメニューから「ファイル」をクリックする。
3. 「名前を付けて保存」をクリックする。(IE の場合は、フロッピーディスクのアイコン (名前を付けて保存) をクリックする。)
4. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
5. 「保存」をクリックする。

Adobe Acrobat Reader のダウンロード

これらの PDF ファイルを表示または印刷するために、Adobe Acrobat Reader が必要な場合は、Adobe の Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)  からダウンロードできます。

第 4 章 マネージメント・セントラルのスタートアップ

マネージメント・セントラルを使ってみましょう！いくつかの簡単なステップに従って、マネージメント・セントラルを構成します。



1. **マネージメント・セントラルのインストールとマネージメント・セントラルへのアクセス**
使用するマネージメント・セントラルの機能の一部は、オプションでインストール可能な iSeries ナビゲーターのコンポーネントです。iSeries ナビゲーターをインストールする際に、それらの機能をインストールするように選択してください。「iSeries ナビゲーター」ウィンドウで、「マネージメント・セントラル」を選択して開きます。
2. **セントラル・システムのセットアップ**
最初に iSeries ナビゲーターを開始した時点で、セントラル・システムを選択することになります。セントラル・システムは、いつでも簡単に変更できます。
3. **エンドポイント・システムの追加**
エンドポイント・システムとは、ネットワーク内のシステムであり、単一のセントラル・システムによる管理の対象となるシステムのことです。管理対象となるエンドポイント・システムを追加する方法が分かります。
4. **システム・グループの作成**
複数のシステムからなるグループの管理というマネージメント・セントラルの機能を最大限に活用します。複数のシステムまたは論理区画を使って作業する場合、システム・グループを作成すると各エンドポイント・システムを選択しなくてもすべてのシステム上のタスクを実行できます。作成したシステム・グループを選択するだけで、タスクを開始できます。

マネージメント・セントラルに関する以上の準備作業を終えたなら、マネージメント・セントラルを使った作業を開始できます。

マネージメント・セントラルのインストールとマネージメント・セントラルへのアクセス

マネージメント・セントラルのいくつかの機能は、iSeries サーバーのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) である iSeries ナビゲーターのオプションとしてインストール可能なコンポーネントです。iSeries Access for Windows をインストールする場合、「コンポーネント選択 (Component Selection)」ウィンドウで iSeries ナビゲーターを選択してください。iSeries ナビゲーターを選択すると、iSeries ナビゲーター基本サポートが自動的に選択されます。iSeries ナビゲーター基本サポートには、マネージメント・セントラルの機能の幾つかが含まれます。マネージメント・セントラルの機能のすべてが必要であれば、「構成およびサービス」、「ユーザーおよびグループ」、「コマンド」、「パッケージおよび製品」、および「モニター」を選択してください。

iSeries ナビゲーターのインストール時に必要なすべてのコンポーネントをインストールしなかった場合は、次のようにしてください。

1.  iSeries ナビゲーターのメニュー・バーから、「ファイル」->「インストール・オプション (Install Options)」->「選択セットアップ」を選択します。
2. 「選択セットアップ」ウィザードを使用して、マネージメント・セントラル機能に必要な追加のコンポーネントをインストールします。マネージメント・セントラルのすべての機能が必要であれば、「構成およびサービス」、「ユーザーおよびグループ」、「コマンド」、「パッケージおよび製品」、および「モニター」を選択してください。

「選択セットアップ」ウィザードを使用すると、選択したコンポーネントがインストールされます。選択セットアップ中に選択解除されたコンポーネントは、アンインストールされます。それで、この「選択セットアップ」ウィザードを使用中に、誤ってアンインストールすることがないようにご注意ください。

iSeries ナビゲーターをインストールすると、デスクトップのアイコンをダブルクリックするだけで iSeries ナビゲーターを開始できます。これで、セントラル・システムをセットアップする準備ができました。

セントラル・システムのセットアップ

マネージメント・セントラルを使うと、TCP/IP ネットワーク環境の中で複数のシステムを単一のシステムから管理することができます。TCP/IP 環境の場合、マネージメント・セントラル構成の変更が必要となる局面があるかもしれません。例えば、ファイアウォールを使用している場合やマネージメント・セントラルの通信用に SSL 暗号化を使用する場合には、マネージメント・セントラルの設定にいくらかの変更が必要になる可能性があります。上記の場合および他の特殊な場合の詳細については、Management Central FAQs



を参照してください。

複数のサーバーを単一のシステムから管理するには、セントラル・システムを設定する必要があります。ネットワーク内のサーバーは**エンドポイント・システム**と呼ばれます。これらのエンドポイント・システムの 1 つをセントラル・システムとして選択します。ネットワークにエンドポイント・システムを追加してセントラル・システムを選択したなら、後はいくつかのシステム管理タスクを 1 度実行するだけです。セントラル・システムがそのタスクを開始し、マネージメント・セントラルのデータはセントラル・システムに保管されます。

セントラル・システムの初めてのセットアップ

▶ iSeries ナビゲーターの使用を開始するには、デスクトップのアイコンをダブルクリックし、その後 iSeries サーバーを選択して接続します。最初に接続するサーバーがセントラル・システムとして割り当てられます。マネージメント・セントラルが、「iSeries ナビゲーター」ウィンドウの左側にツリー階層で自動的に表示されます。マネージメント・セントラルの機能にアクセスするには、「**マネージメント・セントラル**」を展開してください。セントラル・システムが OS/400 V5R2 以降で実行されている場合、「**マネージメント・セントラル**」を右マウス・ボタン・クリックして「**接続の検査 (Verify Connection)**」を選択するだけで、セントラル・システムの接続が正しく構成されていることを確認できます。障害が生じたことを知らせるメッセージの詳細を参照するには、そのメッセージを選択して「**詳細**」をクリックできます。(またはそのメッセージをダブルクリックするだけでも可能です) ◀◀

セントラル・システムの変更

▶ 別のシステムをセントラル・システムとしていつでも選択できます。セントラル・システムは、直接接続しているシステムでなければなりませんし、OS/400 オペレーティング・システム バージョン 4、リリース 5 (V4R5) 以降が実行されている必要があります。iSeries ナビゲーターの最新機能を使用するには、セントラル・システムは OS/400 バージョン 5、リリース 2 (V5R2) を実行していなければなりません。

V5R2 iSeries ナビゲーターが実行されている PC で、OS/400 V5R1 が実行されているセントラル・システムを選択する場合、V5R1 システムに次の修正 (PTF としても知られる) がインストールされていることが必要です。SI01375、SI01376、SI01377、SI01378、および SI01838。これらの修正がないなら、V5R1 システムにはセントラル・システムとして接続できません。◀◀

セントラル・システムを変更するには、次のようにします。

1. マネージメント・セントラルを右マウス・ボタン・クリックしてから、「セントラル・システムの変更」を選択します。
2. 「セントラル・システムの変更」ダイアログを使って、接続されているシステムのリストからシステムを選択してください。
3. セントラル・システムとして使用するシステムが、現在 iSeries ナビゲーター・ネットワークに接続されていない場合は、「使用する接続」を右マウス・ボタン・クリックして、「接続の追加」を選択します。新しいシステムが接続されたら、セントラル・システムを新しいシステムに変更できます。

上記のおよびマネージメント・セントラルの他のタスクの詳細に関するトピックは、[▶](#) 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから利用できる詳細なタスクのヘルプを参照してください。メニュー・バーから「ヘルプ」をクリックして、「ヘルプ・トピック (Help Topics)」を選択します。「できること (What can I do with . . .?)」を選択し、行えること、およびそれを実行するには「iSeries ナビゲーター」ウィンドウのどこにいる必要があるかを調べます。[◀](#) セントラル・システムのセットアップが完了したなら、次に、マネージメント・セントラルのセットアップに必要な他のタスクを実行することができます。

エンドポイントの追加およびシステム・グループの作成が完了すると、それらのエンドポイント・システムおよびシステム・グループもマネージメント・セントラルの下に表示されます。上記のおよびマネージメント・セントラルの他のタスクの詳細に関するトピックは、[▶](#) 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから利用できる詳細なタスクのヘルプを参照してください。メニュー・バーから「ヘルプ」をクリックして、「ヘルプ・トピック (Help Topics)」を選択します。「できること (What can I do with . . .?)」を選択し、行えること、およびそれを実行するには「iSeries ナビゲーター」ウィンドウのどこにいる必要があるかを調べます。[◀](#)

エンドポイント・システムのマネージメント・セントラル・ネットワークへの追加

エンドポイント・システムとは、TCP/IP ネットワーク内の、セントラル・システムが管理する任意のシステムまたは論理区画のことです。



[▶](#) OS/400 V5R1 が実行されているエンドポイント・システムを追加する場合、V5R1 システムに次の (PTF としても知られる) 修正がインストールされていることが必要です。SI01375、SI01376、SI01377、SI01378、および SI01838。これらの修正がないなら、エンドポイント・システムでマネージメント・セントラルの機能すべてを使用できなくなります。[◀](#)

大規模ネットワーク用のエンドポイント・システムを追加するには、次のようにします。

1. 「エンドポイント・システム」を右マウス・ボタン・クリックして、「システムのディスカバー」を選択します。
2. 検索する TCP/IP サブネットを指定します。
3. 「OK」をクリックすると、検出される接続済みの OS/400 システムがエンドポイント・システムとしてネットワークに追加され、すべてのエンドポイント・システムの IP アドレスが更新されます。

1 つまたは複数のエンドポイント・システムを手操作で追加するには、次のようにします。

1. 「エンドポイント・システム」を右マウス・ボタン・クリックして、「新しいエンドポイント・システム」を選択します。
2. システムの名前を入力して「OK」をクリックします。

これで完了です。追加したエンドポイント・システムが、「iSeries ナビゲーター」ウィンドウの「**エンドポイント・システム**」の下に自動的に表示されます。次いで、システム・グループを作成し、エンドポイント・システムのさまざまなセットの管理に役立てることができます。iSeries ナビゲーターには、新しいシステム・グループも表示されます。上記のおよびマネージメント・セントラルの他のタスクの詳細に関するトピックは、 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから利用できる詳細なタスクのヘルプを参照してください。メニュー・バーから「ヘルプ」をクリックして、「ヘルプ・トピック (Help Topics)」を選択します。「**できること (What can I do with . . .?)**」を選択し、行えること、およびそれを実行するには「iSeries ナビゲーター」ウィンドウのどこにいる必要があるかを調べます。

マネージメント・セントラル・ネットワークでのシステム・グループの作成


システム・グループは、ユーザー定義によるエンドポイント・システムの集まりです。エンドポイント・システムとは、TCP/IP ネットワーク内の、セントラル・システムが管理する任意のシステムまたは論理区画のことであることを忘れないでください。

エンドポイント・システムは、同時に複数のシステム・グループに属することが可能です。システム・グループを作成しておけば、単一のシステムであるかのようにしてセントラル・システムからそのグループ全体を管理することができます。

システム・グループを作成するには、次の簡単なステップを実行します。

1. 「**iSeries ナビゲーター**」ウィンドウから「**マネージメント・セントラル**」を開きます。
2. 「**システム・グループ**」を右マウス・ボタン・クリックし、「**新しいシステム・グループ**」を選択します。
3. 「**新しいシステム・グループ**」ダイアログで、新しいシステム・グループのための固有の名前を指定します。後になってシステム・グループのリストの中でこのグループを見分けるのに役立つ簡単な説明を入力することもできます。
4. 「**使用可能なシステム**」のリストから、この新しいグループに含めるシステムを選択します。「**追加**」ボタンを押すと、システムが「**選択されたシステム**」リストに追加されます。
5. このシステム・グループを他のユーザーからも表示したり変更したりできるようにするには、**共用**を使用してください。「**共用**」タブをクリックし、共用として「**読み取り専用**」または「**全部**」を指定します。「**なし**」を指定すると、他のユーザーはこのシステム・グループを表示したり変更したりできなくなります。
6. 「**OK**」をクリックすると、新しいシステム・グループが作成されます。

作成したシステム・グループには、入力したエンドポイント・システムがすべて含まれます。後になって、エンドポイント・システムのリストを編集したいという場合もあるかもしれません。いつでもシステム・グループにエンドポイント・システムを追加したり、システム・グループからエンドポイント・システムを除去したりすることかできます。マネージメント・セントラルからシステム・グループを削除することも可能です。システム・グループを削除またはシステム・グループからエンドポイント・システムを除去する場合、システム・グループだけが変更されます。システム・グループにあったエンドポイント・システムは、「iSeries ナビゲーター」ウィンドウの「**エンドポイント・システム**」の下に引き続きリストされます。

上記のおよびマネージメント・セントラルの他のタスクの詳細に関するトピックは、 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから利用できる詳細なタスクのヘルプを参照してください。メニュー・バーから「ヘル

プ」をクリックして、「ヘルプ・トピック (Help Topics)」を選択します。「できること (What can I do with . . .?)」を選択し、行えること、およびそれを実行するには「iSeries ナビゲーター」ウィンドウのどこにいる必要があるかを調べます。 <<

第 5 章 マネージメント・セントラルを使った作業

マネージメント・セントラルを使用して、iSeries ナビゲーターのシステム管理タスクを合理化することができます。マネージメント・セントラルを最大限に活用するには、まずマネージメント・セントラル構成のプランを作成します。そのようにすれば、システム管理に必要なタスクを能率的に完了することができます。マネージメント・セントラルの構成を知るには、トピック、スタートアップを参照してください。マネージメント・セントラルがシステム管理タスクを容易にかつ効果的に管理するのに、どのように役立つかを知るためにも参照してください。

マネージメント・セントラルの一連の強力な機能を使用して、すべてのシステム管理タスクを処理できます。

コマンドの実行

マネージメント・セントラルを使用すると、複数システム上でコマンドを実行することができます。定期的に行うコマンドについては、コマンド定義を作成して、ネットワーク内のエンドポイント・システムで実行するようスケジュールするだけで済みます。OS/400 コマンドの入力または選択時に役立つように、いつでも「プロンプト」ボタンをクリックして、すべてのコマンド用のパラメーターおよび値の完全なリストを表示できます。

ユーザーおよびグループの管理

マネージメント・セントラルのユーザー管理機能を使用して、複数のシステムのユーザー、グループ、およびその特権を追跡することができます。複数のシステムに渡って、ユーザーの作成、送信、編集、および削除を行うこともできます。

インベントリーの収集

▶ 定期的に種々のインベントリーを収集して管理して、指定したセントラル・システムにデータを保管できます。例えば、ユーザーおよびグループ、修正、システム値、ハードウェア・リソース、ソフトウェア・リソース、サービス属性、連絡先情報、またはネットワーク属性のインベントリーを収集できます。他のタイプのリソースのリストの収集を可能にする他のアプリケーションをインストールすることもできます。

ハードウェア、ソフトウェア、修正、およびユーザーとグループのインベントリーを指定した基準で検索できます。他の QUERY を実行するために、検索の結果またはインベントリー全体を PC ファイルにエクスポートして PC アプリケーションを使用することができます。◀

システム・パフォーマンスとリソースのモニター

マネージメント・セントラル・モニターを使用して、システムが行っている作業を追跡します。▶ ジョブ、メッセージ、ファイル、企業間取引、およびシステム・パフォーマンスをモニターできます。◀ イベント・ログを使用して、これらのモニターによって作成されたイベントの記録をたどることもできます。▶ iSeries ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用してリモート側で、すべてのモニターとマネージメント・セントラルのすべてのタスクを表示できます。◀

修正の管理

修正 (またはプログラム一時修正 (PTF)) は、複数のシステムに渡って最新のものに保つようにしてください。マネージメント・セントラルを使用して、1 つ以上のエンドポイント・システムの修正の管理を効率的に行ってください。修正の送信、インストール、および比較更新を行うことができます。▶ 修正グループを使用して、複数の修正を単一の修正のように管理します。修正グループは、修正のリストおよび関連する修正グループを簡単に定義します。◀

パフォーマンス・データの収集	収集サービスを使用して、後で分析するために (たとえば、パフォーマンス・ツール (iSeries 用) を使用して)、システム・パフォーマンス・データを収集することができます。長期間に渡って収集したメトリックをグラフィカルに表示するには、「グラフ・ヒストリー (Graph History)」ウィンドウを使用してください。収集サービスを使用してデータを収集している限り、「グラフ・ヒストリー (Graph History)」機能を使用できます。システム・モニターを実行しておく必要はありません。
システム値の管理	マネージメント・セントラルを使用すると、システム値の表示、比較、更新、つまり、効率的にシステム値を管理し、ネットワーク内の複数システムに渡って整合性を維持するのに必要なすべてのことを行えます。
ソフトウェア・プロダクトの管理	<p>マネージメント・セントラルを使用して、ネットワーク内のシステムにソフトウェア・プロダクトをパッケージして送信することができます。プロダクト定義を作成して、アプリケーションを iSeries サーバーのプロダクトとして簡単に識別します。プロダクト定義には、IBM ライセンス・プログラムをインストールするのと同様、プロダクトを複数のシステムに送信およびインストールするのに必要なすべての情報が入っています。これらのユーザー定義のソフトウェア・プロダクト用に修正を生成することもできます。</p> <p>ソフトウェア・インベントリーからソフトウェア・プロダクトを送信することもできます。</p>
オブジェクトのパッケージと送信	マネージメント・セントラルを使用して、ネットワーク内のシステムにオブジェクトをパッケージして送信することができます。データのスナップショットを作成して、データの複数のバージョンを保存することができます。
不在タスクまたはジョブのスケジュール	マネージメント・セントラルの統合スケジューラーを使用して、反復タスクを自動化できます。タスクを即時に実行するよう選択することも、スケジューラーを使用して後で実行するよう選択することもできます。タスクを 1 回だけ実行するようスケジュールすることもでき、日次、週次、または月次に都合のよい時刻に実行するようスケジュールすることもできます。また、拡張ジョブ・スケジュールを使用することも可能です。これは、より高度な予定表管理機能が備わっており、スケジュールされたイベントをより効果的に制御することができる個別のライセンス・プログラムです。

最後に、マネージメント・セントラルでは、マネージメント・セントラルのリソースを他のユーザーと共有することによって、システム運用管理がさらに容易になります。マネージメント・セントラルに設けられているオンライン・ヘルプもご使用ください。オンライン・ヘルプには、新機能の説明、ヘルプ、手順の説明、および拡張された例などが含まれており、マネージメント・セントラルの機能を最大限に活用するためのヒントや技法が収められています。

マネージメント・セントラルによるコマンドの実行

マネージメント・セントラルにより、アクションまたはタスクを定義し、そのアクションまたはタスクを複数のエンドポイント・システムまたはシステム・グループで実行することができます。1 つまたは複数のエンドポイント・システムまたはシステム・グループを選択して、これらのシステムで実行するコマンドを指定できます。➤ OS/400 コマンドの入力または選択を援助するため、「プロンプト」をクリックできます。⏪ コマンドを即時に実行するようを選択することもできますし、後で実行するようスケジュールすることもできます。

コマンド定義を作成して、複数のエンドポイントおよびシステム・グループで繰り返し実行するコマンドを保管できます。コマンド定義をセントラル・システムに保管すれば、よく使用されるコマンドまたは複合コマンドを他のユーザーと共有できます。コマンドが実行されると、タスクが作成されます。

マネージメント・セントラルを使ってコマンドを実行する理由

iSeries ナビゲーターでは単にポイント・アンド・クリックするだけで、1 つ以上のエンドポイント・システムでコマンドを実行できます。加えて、毎日実行する操作で反復作業の実行が必要な場合は、マネージメント・セントラルのコマンド定義を活用できます。たとえば、コマンド定義を使用して、以下のタスクを実行できます。

- 複数のエンドポイント・システムまたはシステム・グループでネットワーク属性を設定する
- お客様に対応したりシステムの必要を処理したりするための独自のヘルプ・デスクや操作「ラン・ブック」をセットアップする

実際、バッチの中で実行できる制御言語 (CL) コマンドを、複数のシステムに同時に送信することができます。単に、コマンド定義を作成して、エンドポイント・システムまたはシステム・グループでそのコマンドを実行するだけです。

▶ 詳細なタスクのヘルプは、「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから利用できます。メニュー・バーから「ヘルプ」をクリックして、「ヘルプ・トピック (Help Topics)」を選択します。「できること (What can I do with . . .?)」を選択し、行えること、およびそれを実行するには「iSeries ナビゲーター」ウィンドウのどこにいる必要があるかを調べます。◀

マネージメント・セントラルでは、単にコマンドを実行する以上のことが可能です。この強力なツールを用いて、迅速かつ効果的にシステム管理を行う上で必要な、多くのタスクを実行することができます。

マネージメント・セントラルによるユーザーおよびグループの管理

マネージメント・セントラルを使用すると、システム管理者が、1 つ以上のエンドポイント・システムでのユーザー、グループ、およびそれらの特権のレベルの形跡を保持することに役立ちます。▶ 詳細なタスクのヘルプは、「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから利用できます。メニュー・バーから「ヘルプ」をクリックして、「ヘルプ・トピック (Help Topics)」を選択します。「できること (What can I do with . . .?)」を選択し、行えること、およびそれを実行するには「iSeries ナビゲーター」ウィンドウのどこにいる必要があるかを調べます。◀

以下のリストは、システム管理者がマネージメント・セントラルにより仕事を容易にすることができるさまざまな方法のアイデアです。

ユーザー定義を作成する

ユーザーの定義を作成することができるので、その定義に基づいて複数システムにわたる複数ユーザーを作成することができます。まず、システムのユーザーのタイプについてユーザー定義を作成します。次に、新しいユーザーの要求があったとき、すべての特殊権限、属性、およびそのタイプのユーザーに共通な他の情報は、ユーザー定義にすでに保管されているのです。ユーザーが作成された後に実行するコマンドを、ユーザー定義から指定することさえできます。▶ OS/400

◀ コマンドの入力や選択の際に援助が必要な場合は、「プロンプト」をクリックして、該当するパラメーターと値を選択することができます。

▶ ユーザー定義から新しいユーザーを作成する場合、ユーザーの名前、ユーザーのリストからそのユーザーを識別しやすくする要旨、およびそのユーザーの新しいパスワードを指定するだけです。新しいユーザーの他のすべてのプロパティは、プロパティの変更を指定しない限り、ユーザーの定義に保管されているプロパティを基にします。ユーザーを作成するときに、ユーザーが属するグループを選択し、ユーザーについての個人情報を付加することもできます。◀

ユーザーおよびグループを作成、編集、および削除する

複数のエンドポイント・システムまたはシステム・グループにまたがるユーザーおよびグループの作成、編集、および削除、さらにそれらのアクションをスケジュールすることも可能です。たとえば、「ユーザーの編集」機能を使って、選択したエンドポイント・システムまたはシステム・グループの 1 人または複数のユーザーのプロパティを変更することができます。複数システムの数人のユーザーの権限レベルを変更する必要がある場合、あるいは複数システムへのアクセス権を持っているユーザーが名前を変えた場合、その情報を容易に編集し、その変更をすべてのシステムに適用することができます。

▶ マネージメント・セントラルを使用してユーザーを削除するときは、選択したいずれかのユーザーが、そのユーザーが削除されるいずれかのシステムにオブジェクトを所有している場合に、アクションが起こるように選択することができます。「所有オブジェクトのスキャン (Scan for Owned Objects)」をクリックして、選択したユーザーが、選択済みのエンドポイント・システムに、あるいは選択済みのシステム・グループをまたがって、どういうオブジェクトを所有しているかを調べることができます。◀

インベントリーを収集する

1 つまたは複数のエンドポイント・システムのユーザーおよびグループのインベントリーを収集して、そのインベントリーを表示、検索、または PC ファイルにエクスポートすることができます。広範囲にわたる拡張検索機能によって検索を容易に行うことができます。たとえば、誰が機密保護担当者の特権を持っているかを調べるためにインベントリーを検索することができますし、他のプロファイル・プロパティを照会するためにインベントリーを検索することができます。また、これらのインベントリー・リストは、いずれかの欄見出しをクリックすることによってソートすることができます。たとえば、「特権クラス (Privilege Class)」見出しをクリックすることによって、機密保護担当者特権を持つインベントリー内のすべてのユーザーをまとめることができます。

▶ 1 人または複数のユーザーを右マウス・ボタン・クリックして、メニューからアクションを選択することによって、インベントリー・リストからさまざまなアクションを実行できます。たとえば、ユーザーの削除、ユーザーの編集、ユーザーのプロパティの表示、またはユーザーが所有するオブジェクトのスキャンを行えます。エンドポイント・システムの「グループ・インベントリー」を選択することによって、グループについても同様のアクションを行えます。

セントラル・システムのインベントリーを最新のものに保つために、ユーザーおよびグループ・インベントリーを繰り返し収集するようスケジュールすることをお勧めします。マネージメント・セントラルの下にあるエンドポイント・システムまたはシステム・グループのユーザーまたはグループのインベントリーを変更すると、セントラル・システムのインベントリーが自動的に更新されます。◀

ユーザーおよびグループを送信する

あるシステムのユーザーおよびグループを、複数のエンドポイント・システムまたはシステム・グループに送信することができます。▶ 必要なすべてのユーザー・プロパティは、ターゲット・システムに送信されます。ユーザー・プロパティには、ユーザー名とパスワード (LAN サーバー・パスワードと OS/400 パスワード)、セキュリティ設定、私用認可、エンタープライズ ID マップ (EIM) アソシエーション、およびメール・オプションが含まれます。ユーザーが発信元システムのシステム配布ディレクトリーに項目を持っている場合は、ターゲット・システムにそのユーザーのための項目が作成 (または更新) されます。

送信するリストの中のいずれかのユーザーが、すでにターゲット・システムに存在している場合に必要なアクションを指定することもできます。ユーザーを送信するときに、すでに存在しているユーザーを変更しないか、または存在しているユーザーを送信するユーザーの設定に更新するかを選択することができます。ユーザーを送信する際に「拡張」をクリックして、拡張送信オプションを指定することができます。拡張送信オプションには、ユーザーのメール・システムの指定、および送信されるユーザーの UID に基づいた、ターゲット・システムでのユーザーの固有 ID (UID) の同期化が含まれています。◀

所有オブジェクトをスキャンする

所有オブジェクトをスキャンして、ユーザーまたはグループが、複数のエンドポイント・システムまたはシステム・グループにわたってどのようなオブジェクトを所有しているかを検出することができます。さらに、複数のユーザーが同時に所有しているオブジェクトをスキャンすることもできます。

固有 ID を同期化する

複数エンドポイント・システムにわたるユーザーまたはグループの固有 ID (UID および GID) を同期化して、それらの番号がそれぞれ、各システムで同じユーザーを指すようにすることができます。クラスター化環境のシステムまたは論理区画を持つシステムで作業する場合は特に重要です。UID および GID の番号は、プログラムがユーザーまたはグループを識別するためのものという別の意味もあります。たとえば、統合ファイル・システム環境では、UID と GID の番号はプログラミング・インターフェースで使用されます。

➤ 新しいユーザーまたはグループを作成するとき、ユーザーまたはグループを編集するとき、またはあるシステムから別のシステムにユーザーまたはグループを送信するときには、固有 ID を同期化することを選択できます。ユーザーかグループを作成または編集する際に固有 ID を同期化する場合、ユーザーおよびグループ・インベントリーが最新のものに保たれていることを確認してください。◀

注: 文字ベースのインターフェースでユーザーおよびグループを処理するときに必要な、OS/400 のすべての特殊権限と他の権限は、マネージメント・セントラルでユーザーおよびグループを管理するときも認知されます。それには、セキュリティ管理 (*SECADM) 特権、全オブジェクト (*ALLOBJ) 特権、および処理するプロファイルについての権限が含まれます。

しかし、最も制限されたシステム特権 (*USER) しか持っていないユーザーでさえ、適切な権限を持つ別のユーザーにより収集されたユーザーまたはグループ・インベントリーを表示、検索、またはエクスポートできます。*USER 権限を持つユーザーは、ユーザーの作成または削除、既存のユーザーの編集、または別のシステムへのユーザーの送信はできません。

あるシステムから別のシステムにユーザーまたはグループを送信するには、保管 / 復元 (*SAVSYS) 権限も必要です。

インベントリーでの作業

➤ マネージメント・セントラルのインベントリー機能を使用して定期的にインベントリーを収集して管理し、セントラル・システムとして選択した iSeries サーバー上にデータを保管します。例えば、ユーザーおよびグループ、修正、システム値、ハードウェア・リソース、ソフトウェア・リソース、サービス属性、連絡先情報、またはネットワーク属性のインベントリーを収集できます。他のタイプのリソースのリストの収集を可能にする他のアプリケーションをインストールすることもできます。

すぐにインベントリーを収集することもできますし、後ほど収集するようスケジュールすることもできます。インベントリー収集を日次、週次、または月次に行うようスケジュールして、インベントリーを最新のものに保つことができます。

特定のインベントリーの詳細については、以下のトピックを参照してください。

修正のインベントリーの表示 (Display an inventory of fixes)

「iSeries ナビゲーター」ウィザードを使用すると修正インベントリーを管理する方法が分かります。

マネージメント・セントラルによるユーザーおよびグループの管理

1 つまたは複数のエンドポイント・システムのユーザーおよびグループのインベントリーを収集して、そのインベントリーを表示、検索、または PC ファイルにエクスポートする方法について説明しています。

システム値インベントリーの処理 (Work with system values inventory)

インベントリーを使用してターゲット・システム上のシステム値を比較更新する方法を調べます。

インベントリーの収集方法またはインベントリー収集のスケジュール方法の詳細については、「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから利用できる詳細なタスクのヘルプを参照してください。メニュー・バーから「ヘルプ」をクリックして、「ヘルプ・トピック (Help Topics)」を選択します。「できること (What can I do with . . .?)」を選択し、行えること、およびそれを実行するには「iSeries ナビゲーター」ウィンドウのどこにいる必要があるかを調べます。

インベントリーの表示

インベントリーを収集した後、インベントリー・リストを表示してリスト内の任意の項目を右マウス・ボタン・クリックし、その項目で処理可能なアクションを参照できます。

例えば、エンドポイント・システム上にインストールされているすべてのプロダクトのインベントリーを表示するには、「ソフトウェア・インベントリー」(「マネージメント・セントラル」 → 「エンドポイント・システム」 → 「任意のエンドポイント・システム」 → 「構成およびサービス」 → 「ソフトウェア・インベントリー」 → 「インストール済みプロダクト (Installed Products)」) を選択します。このようにすれば、エンドポイント・システム上にインストールされているソフトウェアを簡単に確認することができます。「状況」欄は、インベントリーが最後に収集された時のソフトウェアの最新状況 (インストールされているもの、またはインストールされてサポートされているもの) を反映しています (リストの上に表示されます)。

セントラル・システムのインベントリーを最新のものに保つため、すべてのシステム・インベントリーを繰り返し収集するようスケジュールすることをお勧めします。

インベントリーに関してできること

エンドポイント・システム上のインベントリーを表示する際、インベントリー・リストの任意の項目を右マウス・ボタン・クリックすることにより、その項目で処理可能なアクションを参照できます。例えば、以下のように、インベントリーを使用してサーバーを管理する方法がいくつかあります。

- 「修正インベントリー」を収集した後、1 つ以上のエンドポイント・システムの修正をモデル・システムの修正と比較できます。その後、欠落している修正をターゲットのエンドポイント・システムに送信し、これらをそのシステムにインストールします。修正インベントリーを PC ファイルにエクスポートすることもできます。このファイルは、表計算プログラムまたは他のアプリケーションでデータを処理するために使用できます。
- 「ソフトウェア・インベントリー」を表示している場合、リストの任意のソフトウェア・プロダクトを選択し、それを 1 つ以上のターゲットのエンドポイント・システムに送信して、そのシステムにインストールします。ソフトウェア・インベントリーを PC ファイルにエクスポートすることもできます。このファイルは、表計算プログラムまたは他のアプリケーションでデータを処理するために使用できます。
- 「ハードウェア・インベントリー」リストを表示して、エンドポイント・システムのすべてのハードウェアのリソース、状況、および説明を参照します。このリストを使用すれば、ハードウェアの運用状況を簡単にチェックすることができます。「状況」欄は、インベントリーが最後に収集された時の運用状況を反映しています (リストの上に表示されます)。リストされている任意のハードウェアを右マウス・ボタン・クリックして、「プロパティ」を選択することができます。ここでは、「一般」、「物理位置」および「論理アドレス」タブにある多くの情報を検討することができます。この情報は、アップグレードの際や問題を分析する際に使用できます。ハードウェア・インベントリーを PC ファイルにエクスポートすることもできます。このファイルは、表計算プログラムまたは他のアプリケーションでデータを処理するために使用できます。

- ユーザー・インベントリー用のリストを表示する際、1人以上のユーザーを右マウス・ボタン・クリックし、削除、プロパティーの表示、またはユーザーが所有するオブジェクトのスキャンを選択します。エンドポイント・システムの「グループ・インベントリー」を選択することによって、グループについても同様のアクションを行えます。

これらのインベントリーの中に、指定する基準に合うものがあるかどうかを検索できます。追加の検索機能は、マネージメント・セントラルのユーザーおよびグループ・インベントリーを検索する場合に利用可能です。検索の結果またはインベントリー全体を PC ファイルにエクスポートして、表計算プログラムまたは他のアプリケーションでデータを処理するために使用できます。

インベントリーでのアクションの実行

収集されたインベントリーに対して実行できるアクションが定義されているアプリケーションが、インストールされているかもしれません。アクションを提供するアプリケーション・プログラムがインストールされている場合、「アクションの実行」ダイアログの「**使用可能なアクション (Available actions)**」リストにそのアクションがあります。「アクションの実行」ダイアログを開くには、「iSeries ナビゲーター」ウィンドウで任意のシステムを右マウス・ボタン・クリックして「インベントリー」を選択し、その後「**アクションの実行**」を選択します。「**使用可能なアクション (Available actions)**」リストからアクションを選択すると、関連するインベントリーのリストが「**選択済みアクションのインベントリー (Inventory for selected action)**」の下に表示されます。推奨されているインベントリーすべてを選択してから、「追加」をクリックして、この情報を「**実行する選択済みアクション (Selected actions to run)**」リストに追加してください。例えば、IBM Electronic Service Agent アプリケーションがインストールされている場合、「**使用可能なアクション (Available actions)**」リストから「**Electronic Service Agent インベントリーを IBM に送信する (Send Electronic Service Agent inventory to IBM)**」を選択し、システムの拡張および保守が表示されている一連の報告であるインベントリー・データを受信できます。



マネージメント・セントラルのユーザーおよびグループ・インベントリーの検索

ユーザーおよびグループについての検索によって、必要な情報を求めてユーザーおよびグループ・インベントリーの照会を柔軟に実行できます。基本検索は、特定のユーザーまたはグループを探す高速検索に向いています。拡張検索ページを使用すると、柔軟に追加プロファイル・プロパティーを検索できます。たとえば、特権クラスを選択し、次いで機密保護担当者を選択することによって、このエンドポイント・システムまたはシステム・グループの機密保護担当者権限を持つすべてのユーザーを検索できます。

「AND」または「OR」をクリックして、追加フィールドを検索できます。たとえば、このエンドポイント・システムまたはシステム・グループの機密保護担当者権限を持つすべてのユーザーを検索する場合は、「AND」をクリックして「部門」と「**経理 (Accounting)**」を選択することによって、機密保護担当者権限を持つ「**経理 (Accounting)**」部門のユーザーに検索の対象を絞ることができます。

「検索結果 (Search Results)」ウィンドウでは、マネージメント・セントラル内のこのウィンドウ以外でユーザーまたはグループに対して実行できるアクションの多くを実行できます。たとえば、ユーザーまたはグループの削除、プロファイルの編集（たとえば、機密保護担当者権限の削除）、ユーザーまたはグループのプロパティーの表示、ユーザーまたはグループが所有するオブジェクトのスキャンを行えます。結果ウィンドウでは、検索結果をスプレッドシート、テキスト・ファイル、または HTML (Web) ページにエクスポートすることもできます。

拡張検索は、ユーザーおよびグループのインベントリーのとくのみ使用可能です。また、そのためにはセントラル・システムとエンドポイント・システムの両方を、OS/400 V5R1 以降で実行することが必要です。



モニターを使った作業

マネージメント・セントラル・モニターを使用して、システム・パフォーマンス、ジョブおよびサーバー、メッセージ待ち行列、選択済みファイルへの変更、および企業間取引活動をチェックします。

「システム・モニター」を使用して、複数の iSeries サーバーのリアルタイムのパフォーマンスをモニターするグラフの詳細を参照してください。「グラフ・ヒストリー (Graph History)」ウィンドウで、収集サービスによって長期間に渡って収集したメトリックをグラフィカルに表示できます。このデータを、「システム・モニター」ウィンドウに表示された最新のリアルタイム・データと比較できます。

「ジョブ・モニター」を使用して、ジョブおよびサーバーをモニターできます。例えば、ジョブの CPU 使用量、ジョブ状況、またはジョブ・ログ・メッセージをモニターすることができます。

「メッセージ・モニター」を作成して、重要なメッセージのリスト上のアクションを実行できます。例えば、メッセージ・モニターが CPI0953 を検出する場合 (ディスク・プールがしきい値を超える)、もはや必要ではないオブジェクトをディスク・プールから削除するコマンドを実行するよう指定できます。

「ファイル・モニター」を使用して、指定されたテキスト・ストリングまたはサイズのファイルをモニターできます。または、1 つ以上の選択されたファイルの変更をモニターできます。

「企業間取引活動モニター」を使用すると、活動状態にあるトランザクションのグラフを何度も表示できずし、トリガーしきい値に達したときに自動的にコマンドを実行することもできます。特定のトランザクションを検索して表示できずし、この特定のトランザクションの詳細なステップの棒グラフを表示できずし。

任意のマネージメント・セントラル・モニターを開始してから、サーバー、iSeries ナビゲーター、または PC の他のタスクに切り替えることができます。重要なしきい値に達する際に、PC で音によるまたは視覚によるアラームで知らせるように選択できます。実際、自分の PC をオフにすることさえ可能です! モニターは継続し、指定したしきい値コマンドまたはアクションを実行します。モニターは、停止するよう指定した時点まで実行されます。iSeries ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用してリモート側で、すべてのモニターと、マネージメント・セントラルのタスクを表示できます。

モニターを作成して実行するためのこのステップは、どのタイプのモニターを実行するように選択しても基本的には同じです。例については、新しいジョブ・モニターの作成を参照してください。



新しいモニターの作成

➤ マネージメント・セントラルのモニターは強力なツールで、これを使用すると、エンドポイント・システムでの活動を把握しておくことができます。新しいモニターを作成する手順は、短時間でできる簡単なものであり、「新規モニター」ウィンドウから始めます。iSeries ナビゲーターでは、マネージメント・セントラルを開き、「モニター」を開いて、作成するモニターのタイプ (例えば、「ジョブ」) を右マウス・ボタン・クリックしてから、「新しいモニター」を選択します。

新しいモニターに名前を指定したら、次のステップはモニターの対象を指定します。ジョブ・モニターを作成する場合には、どのジョブをモニターするかを選択します。◀ 情報が必要な必要最小限のジョブ数をモニターするようにしてください。モニターするジョブ数が多いと、システムのパフォーマンスに影響を与えることがあります。モニター対象のジョブを指定するには、次の 2 つの方法があります。

- **モニターするジョブ**

ジョブ名、ジョブのユーザー、ジョブ・タイプおよびサブシステムでジョブを指定することができます。ジョブ名、ジョブのユーザーおよびサブシステムで指定するときは、ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使って、1 つまたは複数の文字の代用にすることができます。

- **モニターするサーバー**

ジョブのサーバー名でジョブを指定することができます。「モニターするサーバー」タブにある「使用可能なサーバー」のリストからサーバー名を選択します。カスタム・サーバーを指定することもできます。その場合は、「モニターするサーバー」タブの下にある「新規モニター」または「モニター・プロパティ」 - 「一般」ページの「カスタム・サーバーの追加」ボタンをクリックします。カスタム・サーバーを作成するには、ジョブ変更 (QWTCHGJB) API を使用します。

複数のジョブ選択基準を指定すると、いずれかの基準に合致するジョブがすべてモニターされます。

新しいモニターを作成する際に役立つオンライン・ヘルプを使用してください。マネージメント・セントラルのモニターで測定できる活動の種々の局面については、メトリックの選択をお読みください。

モニターのメトリックの選択

▶ モニターを作成するときは、システム活動をどの局面からモニターするかを決めなければなりません。モニターの各タイプによって、マネージメント・セントラルにはメトリックと呼ばれる測定法がいくつかあり、このメトリックを使用するとシステム活動のさまざまな局面に焦点を合わせることができます。メトリックはシステム・リソースの特定の指標に基づく、あるいはプログラムまたはシステムのパフォーマンスに基づく測定法です。

システム・モニターの場合、CPU 稼働率、対話式応答時間、トランザクション率、ディスク・アーム稼働率、ディスク装置、ディスク IOP 稼働率などの広範囲の使用可能なメトリックから選択できます。

ジョブ・モニターの場合、使用可能なメトリックには、ジョブ・カウント、ジョブ状況、ジョブ・ログ・メッセージ、CPU 稼働率、論理入出力率、ディスク入出力率、通信入出力率、トランザクション率などが含まれます。

メッセージ・モニターの場合、1 つ以上のメッセージ ID、メッセージ・タイプ、重要度レベルを指定できます。通信リンクの問題、配線またはハードウェアの問題またはモデムの問題など、特定のタイプの問題と関連する定義済みのメッセージの集合のリストから選択することもできます。

ファイル・モニターの場合、複数のエンドポイント・システムにある、指定されたテキスト・ストリングまたはサイズのファイルをモニターの対象として選択できます。または指定されたファイルが変更される際にイベントをトリガーするようにも選択できます。

企業間取引活動モニターの場合、使用可能なメトリックには、活動状態にあるトランザクションの数およびその期間が含まれます。



「新規モニター」ウィンドウの「メトリック」ページで、モニターするメトリックを表示および変更することができます。このページにアクセスするには、「モニター」を開いて、作成するモニターのタイプ (例え

ば、「ジョブ」) を右マウス・ボタン・クリックしてから、「新しいモニター」を選択します。必要なフィールドに情報を入力して、「メトリック」タブをクリックします。

モニターに組み込むリストから、任意のメトリック、メトリックのグループ、またはすべてのメトリックを選択して使用することができます。ジョブ・モニターに使用できるメトリックには、次のものがあります。

ジョブ・カウント

ジョブの選択に合致する特定のジョブ数をモニターします。

ジョブ状況

任意に選択した状況のジョブをモニターします。たとえば、完了、切断、終了中、実行中に保留、または初期スレッド保留中などがあります。

ジョブ・ログ・メッセージ

メッセージ ID、タイプ、および最小重大度の任意の組み合わせに基づいて、メッセージをモニターします。

ジョブ数値

CPU 稼働率

使用可能な処理装置時間のうち、そのシステムでモニターしている各ジョブが使用する時間のパーセンテージです。

論理入出力率

そのシステムでモニターしている各ジョブごとの、1 秒あたりの論理入出力処理の数です。

ディスク入出力率

そのシステムでモニターしている各ジョブによって実行される入出力操作の 1 秒あたりの平均数です。この欄の値は、非同期および同期ディスク入出力操作の合計です。

通信入出力率

そのシステムでモニターしている各ジョブごとの、1 秒あたりの通信入出力処理の数です。

トランザクション率

そのシステムでモニターしている各ジョブごとの、1 秒あたりのトランザクションの数です。

トランザクション時間

そのシステムでモニターしている各ジョブの合計トランザクション時間です。

スレッド・カウント

そのシステムでモニターしている各ジョブでの活動中スレッドの数です。

ページ不在率

そのシステムでモニターしている各ジョブでの活動中のプログラムが、主記憶装置にはないアドレスを参照する 1 秒あたりの平均回数です。

要約数値

CPU 稼働率

使用可能な処理装置時間のうち、そのシステムでモニターしたすべてのジョブが使用した時間のパーセンテージです。複数プロセッサのシステムでは、すべてのプロセッサがビジー状態であることを示す平均パーセントです。

論理入出力率

そのシステムでモニターしたすべてのジョブの、1 秒あたりの論理入出力処理の数です。

ディスク入出力率	そのシステムでモニターしたすべてのジョブによって実行された入出力操作の、1秒あたりの平均数です。この欄の値は、非同期および同期ディスク入出力操作の合計です。
通信入出力率	そのシステムでモニターしたすべてのジョブの、1秒あたりの通信入出力処理の数です。
トランザクション率	そのシステムでモニターしたすべてのジョブの、1秒あたりのトランザクションの数です。
トランザクション時間	そのシステムでモニターしたすべてのジョブの合計トランザクション時間です。
スレッド・カウント	そのシステムでモニターしたすべてのジョブの活動中スレッドの数です。
ページ不在率	そのシステムでモニターしたすべてのジョブでの活動中のプログラムが、主記憶装置にはないアドレスを参照する1秒あたりの平均回数です。

メトリックを選択する際に役立つオンライン・ヘルプを使用してください。しきい値を指定することを忘れないでください。それによって、ある値（トリガー値といいます）に達したときに、通知を受けたり、必要なアクションを指定することができます。

モニターのしきい値の指定

モニターにメトリックを選択したときは、それぞれのメトリックごとのしきい値の設定を考える必要があります。モニターで収集されるメトリックのしきい値を設定すると、ある値（トリガー値といいます）に達したときに、通知を受けたり、必要なアクションをオプションで指定することができます。別の値（リセット値といいます）に達したときに必要なアクションを指定することもできます。例えば、システム・モニターを作成する場合、CPU稼働率が90%に達したときには新規ジョブが開始しないようにするOS/400コマンドを、またCPU稼働率が70%未満に落ち込んだ場合には新規ジョブが開始できるようにする別のOS/400コマンドを指定できます。

モニターが収集するそれぞれのメトリックごとに、2つまでのしきい値を設定することができます。しきい値は、メトリックの収集が行われた時点の値に基づいてトリガー起動またはリセットが行われます。収集間隔の期間に大きな数字を指定することによって、よく起こる値の瞬間的な変化に起因する、不要なしきい値の活動を避けることができます。

さらにトリガー値またはリセット値に達した場合には、イベントをイベント・ログに追加するように選択することもできます。

「新規モニター - メトリック」のページのしきい値のタブには、モニターに指定したメトリックごとのしきい値を指定するための個所があります。例えば、ジョブ・モニターを作成する場合、選択したメトリックのタイプに応じてしきい値を以下の方法で設定できます。

ジョブ・カウント

しきい値を定義するとき、トリガーしきい値に達したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することができます。たとえば、「> 25 ジョブ」を選択すると、**期間**に指定する収集間隔の数値の時間に 25 を超えるジョブが実行されているのをモニターが検出すると、しきい値はトリガー起動されます。

次に、モニターが 25 を超えるジョブを検出したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することができます。コマンド名を入力して、コマンドのパラメーターを指定するときに役立つ「**プロンプト**」をクリック (または F4 を入力) します。

「**リセットの使用可能化**」は任意選択で、トリガーを定義した後に選択することができます。リセットしきい値に達したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することもできます。

ジョブ・ログ・メッセージ

しきい値をトリガー起動する条件を指定することができますが、その前に、「**以下のいずれかのメッセージがジョブ・ログに送信されるときにトリガー**」を選択する必要があります。メッセージ ID、タイプ、および最小重大度の任意の組み合わせに基づいて、モニターするメッセージを指定することができます。ジョブ・ログ・メッセージのテーブルの各行には、合致するメッセージがあるとしきい値がトリガー起動される基準の組み合わせが示されています。少なくとも 1 行の基準に合致すると、しきい値はトリガー起動されます。オンライン・ヘルプを使用して、しきい値をトリガー起動する条件を指定します。

情報が必要な必要最小限のジョブ数をモニターするようにしてください。ジョブ・ログ・メッセージでモニターするジョブ数が多いと、システムにパフォーマンスの影響を与えることがあります。

トリガーしきい値に達したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することができます。コマンド名を入力して、コマンドのパラメーターを指定するときに役立つ「**プロンプト**」をクリック (または F4 を入力) します。

「**収集間隔**」タブをクリックし、ジョブ・ログ・メッセージをモニターしてチェックする頻度を指定することを必ず行ってください。

メッセージ・トリガーは、手操作でのみリセットすることができます。リセットしきい値に達したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することができます。モニターをリセットするときは、指定したコマンドを実行しないでリセットするというオプションが常に可能です。

ジョブ状況

「**一般**」タブで、モニターする状況を選択します。しきい値をトリガー起動する条件を指定するには、「**状況しきい値**」タブをクリックします。しきい値をトリガー起動する条件を指定することができますが、その前に、「**ジョブが選択した状況の時にトリガー**」を選択する必要があります。**期間**に指定する収集間隔の数値の時間に、ジョブが選択済みのいずれかの状況であることをモニターが検出すると、しきい値はトリガー起動されます。

次に、トリガーしきい値に達したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することができます。コマンド名を入力して、コマンドのパラメーターを指定するときの援助となる「**プロンプト**」をクリック (または F4 を入力) します。

「**ジョブが選択した状況ではないときにリセット**」は任意選択で、トリガーを定義した後に選択することができます。リセットしきい値に達したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することができます。

ジョブ数値

しきい値を定義するとき、トリガーしきい値に達したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することができます。たとえば、トランザクション率メトリックで「> 101 秒当たりトランザクション」を選択すると、**期間**に指定する収集間隔の数値の時間に、選択済みのいずれかのジョブで 1 秒あたり 101 を超えるトランザクションをモニターが検出すると、しきい値はトリガー起動されます。

次に、モニターが 1 秒あたり 101 を超えるトランザクションを検出したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することができます。コマンド名を入力して、コマンドのパラメーターを指定するときに役立つ「**プロンプト**」をクリック (または F4 を入力) します。

「**リセットの使用可能化**」は任意選択で、トリガーを定義した後に選択することができます。リセットしきい値に達したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することもできます。

要約数値

(すべてのジョブの合計)

しきい値を定義するとき、トリガーしきい値に達したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することができます。たとえば、トランザクション率メトリックで「> 1001 秒当たりトランザクション」を選択すると、**期間**に指定する収集間隔の数値の時間に、選択済みのすべてのジョブで 1 秒あたり 1001 を超えるトランザクションをモニターが検出すると、しきい値はトリガー起動されます。

次に、モニターが 1 秒あたり 1001 を超えるトランザクションを検出したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することができます。コマンド名を入力して、コマンドのパラメーターを指定するときの援助となる「**プロンプト**」をクリック (または F4 を入力) します。

「**リセットの使用可能化**」は任意選択で、トリガーを定義した後に選択することができます。リセットしきい値に達したときにエンドポイント・システムで実行するコマンドを指定することもできます。

しきい値を設定する際に役立つオンライン・ヘルプを使用してください。次は、トリガーしきい値またはリセットしきい値に達したときのコマンドの実行について調べましょう。

モニターの収集間隔の指定

モニターについて選択したメトリックのしきい値を設定するときは、データを収集する頻度を考慮する必要があります。「**収集間隔**」タブをクリックして、すべてのメトリックに同一の収集間隔を使うか、あるいはそれぞれのメトリック・タイプごとに異なる収集間隔を使用するかを選択します。たとえば、30 秒ごとにジョブ・カウント・データを収集することはできますが、ジョブ・ログ・メッセージ・データは 5 分ごとに収集するようにします。ジョブ・ログ・メッセージ・データは、通常はジョブ・カウント・データよりも収集に時間を要するためです。

数値および状況メトリックを 5 分未満の時間でモニターする場合は、「**異なる収集間隔を使用**」を選択する必要があります。

注: ジョブ・カウント、ジョブ数値、および要約数値メトリックの収集間隔は、ジョブ状況メトリックの収集間隔と等しいか、それより小さい必要があります。

「**メトリック**」タブをクリックして、それぞれのしきい値ごとに収集間隔の数値を指定します。

モニターのコマンドの実行

新しいモニターを作成する際には、トリガーしきい値またはリセット値に達した場合にエンドポイント・システムで実行するコマンドを選択することができます。しきい値は、モニターによって収集されているメトリックに関する設定値です。しきい値コマンドは、しきい値イベントが発生した場合にエンドポイント・システムで自動的に実行されます。

しきい値コマンドは、設定したしきい値アクションとは別のものです。しきい値アクションは PC または セントラル・システムで実行されますが、しきい値コマンドはエンドポイント・システムで実行されます。

しきい値コマンドに関してできること

しきい値の設定値を使用することにより、トリガーしきい値またはリセットしきい値に達した場合に実行する **OS/400** コマンドを自動化できます。例えば、ジョブ・モニターを実行していて、あるバッチ・ジョブが 1 番目の勤務時間帯が始まる前に完了するものとされているにもかかわらず午前 6:00 時点でまだ実行中の場合は、ポケットベル呼び出しコマンドをシステム・オペレーターに送信するようにしきい値 1 をセットアップし、システム・オペレーターはそれを注視することができます。午前 7:00 の時点でまだ実行中の場合はジョブを終了するコマンドを送信するように、しきい値 2 をセットアップすることができます。

別の状況として、FTP および HTTP サーバーの待ち時間の値が中央値レベルに達したことをジョブ・モニターが検出するときに、オペレーターにポケットベル呼び出しコマンドで通知することができます。FTP サーバーのジョブが終了した場合は、サーバー開始コマンド (STRTCPSVR *FTP など) でサーバーを再始動します。しきい値を設定し、コマンドを指定することによって、多くの異なる状況を自動的に扱うことができます。つまり、しきい値コマンドは、自分の環境で意味のある任意の方法で使用できます。

しきい値コマンドの設定方法

「新規モニター」-「メトリック」ページにおいて、「しきい値」タブをクリックして、しきい値を有効にします。しきい値コマンドを設定するためには、その前に、「トリガーの使用可能化」オプションを選択して、しきい値をオンしておく必要があります。また、そのウィンドウを使用すれば、トリガーしきい値に達した場合に実行するコマンドを入力することもできます。リセットしきい値に達したときに実行するコマンドを指定する場合は、「リセットの使用可能化」オプションを選択します。

マネージメント・セントラルのモニターを使用すれば、トリガーしきい値またはリセットしきい値に達した場合に、サーバーで実行する任意のバッチ・コマンドを指定できます。 **OS/400** コマンド名を入力して、コマンドのパラメーターを指定する際に役立つ「プロンプト」をクリック (または F4 を入力) します。置換変数 (たとえば &TIME や &NUMCURRENT) を使用して、時刻やメトリックの実際の値などの情報をコマンドに渡すこともできます。

次は、トリガーしきい値またはリセットしきい値に達したときのイベントのロギングについて説明します。

モニターのイベントのロギング

モニターにしきい値を指定したら、「アクション」タブをクリックして、トリガーしきい値またはリセットしきい値に達したときにイベントのロギングと PC のアクションが起こるように選択します。次のいくつかのアクションを選択することができます。

イベントのログを記録する	トリガーしきい値またはリセットしきい値に達したときに、セントラル・システムのイベント・ログに項目を追加します。項目には、イベントが発生した日付と時刻、モニターされているエンドポイント・システム、収集されているメトリック、およびイベントをログに記録するモニターが含まれます。
イベント・ログを開く	イベントが発生したときにイベント・ログを表示します。
モニターを開く	指定したメトリックでモニターされているシステムのリスト、および各システムで収集された、指定したメトリックの値のリストを表示します。
アラームを鳴らす	モニターのトリガーしきい値に達したときに PC のアラームを鳴らします。
OS/400 コマンドを実行する	サーバー・コマンドを指定して、モニターのトリガーしきい値またはリセットしきい値に達したときに実行するようにしている場合、それらのコマンドは、アクションが適用される時間中だけ実行されます。このオプションは「アクション」のページから変更することはできません。コマンドを実行しない場合は、「メトリック」のページからそのコマンドを除去します。しきい値を手操作でリセットするときはいつでも、指定したリセット・コマンドを実行するかどうかを選択することができます。

しきい値に達したときに必要とするアクションを指定したら、選択したしきい値とアクションを適用するタイミングを指定する準備ができました。

モニターのしきい値およびアクションの適用

しきい値を指定して、ログ・イベントを選択したときは、それらのしきい値とアクションを常に適用するか、または選択する日付と時刻のときだけ適用するかを選択します。

しきい値およびアクションを、指定した期間に適用するように選択する場合は、開始時刻と停止時刻を選択する必要があります。セントラル・システムの標準時がエンドポイント・システムの標準時とは異なる場合は、モニターしているエンドポイント・システムで開始時刻に達したときに、しきい値とアクションが適用されることとなりますのでご注意ください。しきい値とアクションを適用する日を少なくとも 1 つ選択する必要があります。しきい値とアクションは、選択した日の選択した開始時刻から、エンドポイント・システムで次の停止時刻がくるまで適用されます。

たとえば、しきい値とアクションを月曜日の夜に夜通しで適用する場合は、「始め」の時刻に 23:00、「終わり」の時刻に 6:00 を選択します。「月曜日」もチェックします。指定したアクションは、月曜日の午後 11:00 と火曜日の午前 6:00 の間なら、指定したしきい値に達したときは常に行われることとなります。

オンライン・ヘルプを使用して、モニターの作成を完了してください。オンライン・ヘルプには、モニターの開始についての指示も含まれています。これで、モニター結果を表示する準備が整います。

モニター結果の表示

モニターに定義したしきい値とアクションを適用するタイミングを指定したなら、モニター結果を表示する準備ができました。

モニター名をダブルクリックして「モニター」ウィンドウを開きます。「モニター」ウィンドウには、モニターの全体の状況およびモニターを実行しているターゲット・システムのリストが表示されます。

上方のペインにあるターゲット・システムのリスト (要約領域) には、各システムのモニターの状況、およびモニターのデータが最後に収集された日付と時刻が表示されます。さらに要約領域には、収集される特定のメトリックに関連する追加情報も表示されます。

システムを選択する際、そのシステム上でモニターされている対象に関する詳細が下方のペインに表示されます。例えば、「ジョブ・モニター」ウィンドウを表示している場合、下方のペインのジョブのリストには、トリガーされたイベント、最後に発生したイベント、および指定したメトリックの実際の値が表示されます。

「オプション」メニューから「列」を選択すると、情報の追加の欄を表示することができます。各欄の説明については、「列」ダイアログの「ヘルプ」をクリックしてください。

下方のペインのリストから、いずれかの項目を右マウス・ボタン・クリックして、処理できるアクションのメニューから選択します。例えばあるジョブを選択すると、トリガーされたイベントのリセット、ジョブのプロパティの表示、ジョブの保留、保留解除、終了を選択できます。

iSeries ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用してリモート側で、すべてのモニターと、マネージメント・セントラルのタスクを表示できます。

他のマネージメント・セントラルの機能も使って、複数のサーバーを簡単に効率的に管理することができます。

モニターのトリガーされたしきい値のリセット

ジョブ・モニターの結果を表示しているときに、トリガーされたしきい値をリセットすることができます。

対象のしきい値のリセット・コマンドとして指定したサーバー・コマンドを実行するか、またはコマンドを実行しないでしきい値をリセットするかを選択することができます。

また、ジョブ・レベル、要約レベル、システム・レベル、またはモニター・レベルでしきい値をリセットすることを選択することもできます。

ジョブ・レベル

「ジョブ・モニター」ウィンドウのジョブ領域で、1 つまたは複数のジョブを選択します。「ファイル」を選択し、「コマンドによるリセット」または「リセット専用」を選択してから「ジョブ」を選択します。選択したジョブのしきい値がリセットされます。対象のモニターでトリガーが起動した他のしきい値は、トリガーされた状態のまま残ります。

要約レベル

「ジョブ・モニター」ウィンドウの要約領域で、1 つまたは複数のシステムを選択します。「ファイル」を選択し、「コマンドによるリセット」または「リセット専用」を選択してから「ジョブ」を選択します。ジョブ・カウントのしきい値、ジョブ数値メトリック、および要約数値メトリックがリセットされます。対象のモニターでトリガーが起動した他のしきい値は、トリガーされた状態のまま残ります。

システム・レベル

「ジョブ・モニター」ウィンドウの要約領域で、1 つまたは複数のシステムを選択します。「ファイル」を選択し、「コマンドによるリセット」または「リセット専用」を選択してから「ジョブ」を選択します。選択したシステムの対象モニターのすべてのしきい値がリセットされます。他のシステムでトリガーが起動した対象モニターのしきい値は、トリガーされた状態のまま残ります。ジョブ領域で行った選択は、いずれも無視されます。

モニター・レベル

「ファイル」を選択し、「コマンドによるリセット」または「リセット専用」を選択してから「ジョブ」を選択します。すべてのシステムの対象モニターのすべてのしきい値がリセットされます。要約領域またはジョブ領域で行った選択は、いずれも無視されます。

他のマネージメント・セントラルの機能も使って、複数のサーバーを簡単に効率的に管理することができます。

イベント・ログ

イベント・ログのウィンドウには、すべてのモニターのしきい値トリガーおよびリセットのイベントのリストが表示されます。モニターごとに「プロパティ」のページで、イベントをイベント・ログに追加する必要があるかどうかを指定することができます。いずれかのモニターの「プロパティ」ページを調べるには、モニター・リストでモニターを選択してから、ファイル・メニューから「プロパティ」を選択します。

イベントのリストは、デフォルトでは、日付と時刻の順序で配列されますが、いずれかの欄見出しをクリックすることにより順序を変更することができます。たとえば、イベントが発生したエンドポイント・システムごとにリストをソートするには、「システム」をクリックします。

各イベントの左にあるアイコンは、イベントのタイプを示しています。



そのイベントは、トリガーしきい値に達したときに、サーバーのコマンドを実行するようには指定していなかったトリガー・イベントであることを示します。



そのイベントは、トリガーしきい値に達したときに、サーバーのコマンドを実行するよう指定していたトリガー・イベントであることを示します。



そのイベントはリセットしきい値のイベントであることを示します。

イベントのリストに特定の基準に適合するものだけが含まれるようにカスタマイズすることができます。そのためにはメニュー・バーの「オプション」を選択してから「組み込み」を選択します。

情報のどの欄をリストに表示するか、および欄の表示の順序を指定することができます。その場合はメニュー・バーの「オプション」を選択してから「カラム」を選択します。

イベントのプロパティを表示して、何がイベント・ログ項目のトリガーとなったかについて、より詳しい情報を得ることができます。

同時に複数のイベント・ログ・ウィンドウを開くことができます。また、イベント・ログ・ウィンドウが開いている間に他のウィンドウで作業をすることができます。イベント・ログ・ウィンドウは、イベントが発生するごとに絶えず更新されます。

マネージメント・セントラルによるオブジェクトのパッケージングと送信

マネージメント・セントラルを使ってファイルおよびプログラムをパッケージングし、送信しましょう！

▶ パッケージにサブフォルダーを入れるかどうかを指定することができます。ターゲット・システムにすでに存在しているファイルを保持するのか、または置換するのかを指定することもできます。送信タスクをすぐに開始するか、あるいは「スケジュール」をクリックして、タスクの開始時期を指定します。 ◀

▶ パッケージ定義を作成しないで、簡単にファイルおよびフォルダーを選択して送信することができます。しかし、 ◀ パッケージ定義を使うことによって、一連の OS/400 のオブジェクトあるいは統合ファ

イル・システム (IFS) のファイルをグループにまとめることができます。また、そのファイル・グループを後で配布するためにそれらのファイルのスナップショットを取ることで 1 つの論理的集まりあるいは物理的集まりと見なすこともできます。

オブジェクト・パッケージングおよび送信のためにマネージメント・セントラルを使う理由

▶ iSeries ナビゲーターでは単にポイント・アンド・クリックするだけで、別のシステムまたはシステムのグループにファイルを送信できます。後日同じファイルを再送信することが予想される場合、パッケージ定義を作成すると、それは保管され、◀ 複数のエンドポイント・システムまたはシステム・グループにファイルおよびフォルダーの定義済みセットを送信するために、いつでも再利用できます。ファイルのスナップショットを作成することにした場合は、同じファイルのセットのコピーの複数のバージョンを保持することができます。スナップショットを送信することによって、ファイルが配布中に更新されることはないのので、最後のターゲット・システムは最初のターゲット・システムと同じオブジェクトを受け取ります。

▶ オブジェクトのパッケージおよび送信のためにマネージメント・セントラルを使用する ◀ もう 1 つの利点は、パッケージの配布が完了した時点でコマンドを実行できるということです。つまり、次のようなことができます。

- バッチ入力ストリームを配布して、それを実行する
- 一連のプログラムを配布して、アプリケーションを開始する
- 一連のデータ・ファイルを配布して、そのデータを処理するプログラムを実行する

▶ 詳細なタスクのヘルプは、「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから利用できます。メニュー・バーから「ヘルプ」をクリックして、「ヘルプ・トピック (Help Topics)」を選択します。「できること (What can I do with . . . ?)」を選択し、行えること、およびそれを実行するには「iSeries ナビゲーター」ウィンドウのどこにいる必要があるかを調べます。◀

マネージメント・セントラルでは、単にオブジェクトをパッケージングして送信する以上のことが可能です。この強力なツールを用いて、迅速かつ効果的にシステム管理を行う上で必要な、多くのタスクを実行することができます。

マネージメント・セントラルの他のユーザーとの共用

共用を使うと、時間を節約でき、システム管理タスクが容易になり、冗長な作業の数が少なくなります。共用は、複数のユーザーが同じものを使用する (共用する) ことを可能にする機能です。▶ モニター、モニター・イベント、◀ システム・グループ、定義、およびシステム管理タスクを共用できます。作成するすべての新規タスクを共用するようユーザー設定を設定することもできます。

ユーザーには (アプリケーション管理のホスト・アプリケーションの下で管理されている) 特殊権限が与えられ、マネージメント・セントラルのすべてのタスク、定義、ジョブ・モニター、メッセージ・モニター、ファイル・モニター、企業間取引活動モニター、およびシステム・グループを表示することが可能です。

項目の所有者だけが共用のレベルを変更できます。所有者は以下の共用のレベルを指定できます。

「なし」

他のユーザーはこの項目を表示できません。この項目の所有者またはアプリケーション管理のホスト・アプリケーションの下で管理されている特殊権限を持つユーザーだけがこの項目を表示できます。マネージメント・セントラル管理アクセスと呼ばれるこの特別権限を持つユーザーは、マネージメント・セントラルのすべてのタスク、定義、ジョブ・モニター、メッセージ・モニター、およびシステム・グループを表示できます。

- 「読み取り専用」 他のユーザーは、この項目を表示して使用できます。他のユーザーは、この項目に基づいて新規項目を作成でき、必要に応じてその新規項目を変更できます。しかし、他のユーザーはこの項目をどのような方法でも削除または変更できません。モニターの所有者であり、(イベント・ログ・ウィンドウのオープンまたは PC でアラームを鳴らすなどの) アクションを指定している場合、しきい値がトリガーされるかリセットされるとモニターのすべてのユーザーにこれらのアクションが発生します。他のユーザーはこれらのアクションを変更できません。項目(タスク ▶ またはモニター ◀) が実行中であれば、他のユーザーはその項目を停止できません。
- 「制御」 他のユーザーはこの ▶ タスクまたはモニターを開始および停止できます。◀所有者だけが項目を削除またはこの項目のプロパティ (共用のレベルも含め) を変更できます。他のユーザーは、この項目に基づいて新規項目を作成するためにこの項目を表示して使用することもできます。モニターの所有者であり、(イベント・ログ・ウィンドウのオープンまたは PC でアラームを鳴らすなどの) アクションを指定している場合、しきい値がトリガーされるかリセットされるとモニターのすべてのユーザーにこれらのアクションが発生します。他のユーザーはこれらのアクションを変更できません。別のユーザー (所有者) によって作成されたモニターの実行と関連するすべてのアクションは、その所有者の権限により実行されます。そのため所有者として、同じレベルの権限を持っていない他の人とモニターを共用することが可能です。
- 「すべて」 他のユーザーはこの ▶ 定義またはシステム・グループを変更および削除できます。◀他のユーザーは、この項目に基づいて新規項目を作成するためにこの項目を表示して使用できます。

共用とマネージメント・セントラルを使用してできること

共用に関して何ができるかは、作業環境ごとの要件によって異なります。たとえば、次の例を考慮してください。

- ▶ ジョブ・モニター、メッセージ・モニター、ファイル・モニター、および企業間取引活動モニターを共用できます。システム・モニターだけは共用できません。◀
モニターを共用すると、ネットワーク内のシステムの▶モニター済みの活動◀を測定するために自分で設定したモニターを、他のユーザーが使用できます。「読み取り専用」共用を選択すると、他のユーザーは、モニターとそのイベント・ログをオープンでき、モニターのプロパティを表示できます。「制御 (Controlled)」共用を選択すると、他のユーザーは、モニターを開始または停止することもできます。モニターの作成時に指定する共用のレベルは、しきい値がトリガーまたはリセットされるときにログに記録されるすべてのイベントにも適用されます。ログに記録した後、イベント用の共用のレベルを変更できます。システムが行っている作業を追跡するためのモニターの使用の詳細については、『マネージメント・セントラル・モニター』を参照してください。
- システム・グループを共用できます。
システム・グループを共用すると、他のユーザーは、認可済みアクションを実行するためにそのシステム・グループを表示して使用できます。「すべて」共用を指定しない限り、すべての許可ユーザーのシステム・グループ内のエンドポイント・システムを制御できます。これによって、そのシステム・グループは常に最新の状態に保たれます。「West Coast Systems」というシステム・グループを作成したとします。そのグループを共用することにすれば、すべてのシステム・オペレーターがそのシステム・グループを使用して「West Coast Systems」を処理できるようになります。「すべて」共用を指定する場合は、他のユーザーがそのグループの内容を更新することがあります。
- 定義を共用できます。
仕事の中に、よく使われるコマンドの「ラン・ブック」を維持管理することが含まれるかもしれません。そのラン・ブックに記録されているコマンド定義を共用することにより、システム・オペレーターが実行するコマンドがいつも正確なものであるようにすることができます。それらのコマンドのいずれ

かに変更を加えることが必要になった場合でも、1箇所を変更するだけで済みます。ユーザーは、正確なコマンドのセットとして共用することができます。

パッケージ定義、プロダクト定義、およびユーザーの定義を共用することもできます。定義を共用することによって、他のユーザーは独自の定義を作成するのにかかる時間を節約できます。

- **タスクを共用できます。**

タスクは、マネージメント・セントラルの中で長時間かけて実行されるアクションです。作成されたアクションを共用にすることにより、ユーザーがタスクの状況を見ることができるようになります。たとえば、システム数が50のシステム・グループに対して、50種類の修正をインストールすることが必要になったとしましょう。そのタスクを共用にするなら、そのタスクを開始しておいて自分は家に帰ることができます。家でくつろいでいる間、次のシフトを担当するオペレーターにPCでその状況を確認してもらえばよいのです！

- **グローバル共用機能を使用してすべてのタスクを共用できます。**

グローバル共用機能は、すべてのシステム管理タスクの共用のレベルとして「なし」、「読み取り専用」、「制御 (Controlled)」のいずれかを指定するのに使います。グローバル共用機能にアクセスするには、マネージメント・セントラルを右マウス・ボタン・クリックして、「ユーザー・プリファレンス」ダイアログを開きます。「なし」以外の値を指定すると、共用の値がそれ以降のすべてのタスクに適用されます。すでに開始されているタスクには、値は適用されません。たとえば、5人が交替で常時勤務するようなチームを考えてみましょう。「制御 (Controlled)」レベルでタスクをグローバルに共用するなら、ある人が開始したタスクをそのチームの他の人も見ることができ、開始した人がいなくてもそのタスクの作業をすることができます。

マネージメント・セントラルでは、システムの管理を迅速かつ効果的に行うのに必要な多くのタスクを実行できることを忘れないでください。

マネージメント・セントラル・スケジューラーによるタスクまたはジョブのスケジューリング

iSeries ナビゲーターには、タスクまたはジョブをスケジュールするために使用できる2つの別個のツール、統合スケジューラー (マネージメント・セントラル・スケジューラー) と拡張ジョブ・スケジューラーがあります。これら2つのツールについて、続く部分で説明します。



マネージメント・スケジューラーとは何か？そしてなぜそれを使用するのか？

iSeries ナビゲーターには、マネージメント・セントラル・スケジューラーという統合スケジューラーが用意されており、タスクを実行するタイミングを編成することができます。このスケジューラーを使用すると、タスクをすぐに実行するか、それとも後で実行するかを選択することができます。

また、マネージメント・セントラル・スケジューラーでは、様々なタスクをスケジューリングすることが可能です。例として、インベントリー (ハードウェア、ソフトウェア、および修正などのインベントリー) の収集プロセスを自動化して、自分の運用スケジュールに合う日にそれが行われるようにすることができます。たとえば、毎週土曜日の夜10時に収集が行われるようにスケジューリングし、毎月の月初めに、修正の保管ファイルとカバー・レターをシステムから消去するようにスケジューリングすることもできます。また、単に一連の修正を一度だけインストールしたいという場合もあるかもしれません。スケジューラーの機能を使うことによって、作業を都合のよい時に柔軟に実行することができます。この他に、マネージメント・セントラル・スケジューラーを使用して、マネージメント・セントラルのほとんどすべてのタスクを実行できます。たとえば、以下のタスクを実行する時刻をスケジュールできます。

- 複数のエンドポイント・システム間で、ユーザーおよびグループの作成、削除、編集、および送信を行う

- 選択したエンドポイント・システムおよびシステム・グループのインベントリーを収集する
- 選択したエンドポイント・システムおよびシステム・グループのシステム値インベントリーを収集し、モデル・システムのシステム値インベントリーと比較更新する
- 選択したシステムおよびグループにおいてコマンドを実行する
- 選択したエンドポイント・システムおよびシステム・グループにおいて、選択した修正の保管ファイルとカバー・レターを削除する
- 選択したエンドポイント・システムおよびシステム・グループに、修正またはファイルのパッケージを送信する
- 修正のインストール、修正のアンインストール、または修正の永久インストールを開始する
- 選択したエンドポイント・システムおよびシステム・グループにおいて、収集サービスを開始および停止する

このツールを実際に使用するための説明は、トピック、マネージメント・セントラル・スケジューラーまたは  「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから利用できる詳細なタスクのヘルプで扱われています。(メニュー・バーから「ヘルプ」をクリックして、「ヘルプ・トピック (Help Topics)」を選択します。「できること (What can I do with . . .?)」を選択し、行えること、およびそれを実行するには「iSeries ナビゲーター」ウィンドウのどこにいる必要があるかを調べます。) 

拡張ジョブ・スケジューラーとは何か？ そしてなぜそれを使用するのか？

拡張ジョブ・スケジューラーは別個のライセンス・プログラム (5722-JS1) で、タスクやジョブをスケジューリングするためにインストールして使用することができます。このスケジューリング・ツールには、より高度な予定表管理機能が備わっており、スケジューリングされたイベントをより効果的に制御することができます。拡張ジョブ・スケジューラーをインストールしておけば、「iSeries ナビゲーター」ダイアログで「スケジュール」ボタンをクリックするだけで、タスクおよびジョブをスケジュールできます。このツールのインストールおよび使用方法に関する詳細は、トピック、拡張ジョブ・スケジューラーを参照してください。

マネージメント・セントラルをご使用になれば、単にタスクをスケジューリングする以上のことが可能になります。この強力なツールを用いて、迅速かつ効果的にシステム管理を行う上で必要な、多くのタスクを実行することができます。

マネージメント・セントラル・スケジューラー

iSeries ナビゲーターでは、タスクのスケジューリングに使用するスケジューラーを選択できます。マネージメント・セントラルによるタスクのスケジューリングは、ボタン (「スケジュール」ボタン) をクリックするだけの簡単なものです。タスクを後で実行するようにスケジューリングするには、該当するダイアログで「スケジュール」をクリックします。スケジュール情報はセントラル・システムに保管され、そこから発行されます。エンドポイント・システムではスケジューリングの機能は全く必要ありません。

タスクを 1 回だけ実行するようスケジュールすることもできます。この場合、タスクは指定した日付と時刻に 1 回実行されます。あるいは、以下のオプションを選択することもできます。

- **日次**
タスクは指定した日付から、指定した時刻に毎日実行されます。
- **週次**
タスクは指定した日付から、指定した時刻に毎週実行されます。デフォルト (今日の日付) をそのまま使用することもでき、タスクを実行する曜日を指定することもできます。

- **月次**

タスクは指定した日付から、指定した時刻に毎月実行されます。デフォルト（今日の日付）をそのまま使用することもでき、月間の日（1～31）、月の最初の日、または月の最後の日を指定することもできます。

「スケジュール」ボタンを使用できるタスクであれば、どのタスクでもスケジューリングできます。たとえば、特定の時刻にインベントリを収集するようスケジューリングすることができます。高度な予定表管理を実行したい場合には、**拡張ジョブ・スケジューラー**を使用してください。

拡張ジョブ・スケジューラー

拡張ジョブ・スケジューラー・ライセンス・プログラム（5722-JS1）を使用すれば、不在時ジョブ処理を1日に24時間、1週間に7日実行できます。標準予定表、会計予定表、またはユーザー定義予定表を選択して、拡張ジョブ・スケジューラーで必要なジョブ・スケジューリング・シナリオを迅速に記述してセットアップしてください。ジョブ完了履歴を表示したり、ジョブの状況の通知を管理することもできます。

拡張ジョブ・スケジューラー・ライセンス・プログラムは、マネージメント・セントラル・ネットワークのすべてのエンドポイント・システムにインストールする必要はありません。拡張ジョブ・スケジューラーをセントラル・システムにインストールすると、エンドポイント・システムで定義するジョブやタスクは、必要なジョブ情報をそのセントラル・システムから集めます。ただし、ジョブ定義情報は、すべてセントラル・システムでセットアップする必要があります。

ネットワーク上のシステムに拡張ジョブ・スケジューラーがローカルにインストールされていれば、マネージメント・セントラルの外で行われるタスクをスケジュールすることができます。そのローカル・システム上の拡張ジョブ・スケジューラーにアクセスするには、iSeries ナビゲーターの「**使用する接続**」で、「**実行管理機能**」を展開します。

以下の情報は、拡張ジョブ・スケジューラーを管理するのに役立ちます。まずライセンス・プログラムをインストールする必要があり、その後拡張ジョブ・スケジューラーのカスタマイズを可能にするタスクについて参照してください。最後に、その他のタスクによってこのスケジューラーを使用して管理できます。

- **拡張ジョブ・スケジューラーのインストール**

拡張ジョブ・スケジューラーをインストールするには、説明されているステップを実行します。

- **拡張ジョブ・スケジューラーのカスタマイズ**

プログラムをインストールしてあり、拡張ジョブ・スケジューラーを初めて使用する場合は、次のステップとしてカスタマイズを行います。必要に応じて、拡張ジョブ・スケジューラーが使用する一般プロパティの指定方法を調べてください。

- **ジョブの従属関係のスケジュール**

互いに従属関係にあるジョブまたはジョブのグループをセットアップします。現在の環境でジョブが処理される方法を反映する依存関係のタイプを選択できます。

- **ジョブ活動のモニター**


ジョブまたはジョブ・グループの履歴や状況を表示します。活動保持期間（ジョブの活動記録を保存する期間）をセットアップすることもできます。

- **メッセージのモニター**

メッセージ ID をジョブのコマンド・リスト内の任意のコマンドに追加し、メッセージをモニターします。

- **ジョブのスケジュール**

拡張ジョブ・スケジューラーを使用して、ジョブを作成し、スケジュールして処理します。指定した順序で続いて実行される一連のジョブをセットアップしてスケジュールする方法が分かります。ジョブ・グループ内のジョブは、次のジョブが処理のために発行される前に完了している必要があります。

- **拡張ジョブ・スケジューラーのトラブルシューティング**
スケジュールした時刻にジョブが実行しない場合に行えることが分かります。
- **拡張ジョブ・スケジューラーの OS/400 スケジューラーとの比較**
拡張ジョブ・スケジューラーと OS/400 スケジューラーの違いが分かります。
- **Job Scheduler frequently asked questions**  ホーム・ページ。
拡張ジョブ・スケジューラーの特定の機能を実行する方法を確認する、一般的に尋ねられる質問について参照してください。

拡張ジョブ・スケジューラーのインストール

拡張ジョブ・スケジューラーをインストールするには、iSeries Access を事前にインストールしておく必要があります。次に、以下のステップを実行して、拡張ジョブ・スケジューラーをインストールします。

1. 「iSeries ナビゲーター」で、メニュー・バーの「ファイル」をクリックします。
2. 「プラグインのインストール (Install Plug-Ins)」を選択します。
3. 拡張ジョブ・スケジューラーがインストールされる起動システムを選択して、「OK」をクリックします。使用する起動システムが分からない場合は、システム管理者に確かめてください。
4. OS/400 の「ユーザー ID」と「パスワード」を入力して、「OK」をクリックします。
5. プラグイン選択リストから「拡張ジョブ・スケジューラー」を選択します。
6. 「次」をクリックして、もう一度「次」をクリックします。
7. インストールが完了したなら、「完了」をクリックしてセットアップを終了します。

これで拡張ジョブ・スケジューラーがインストールされました！

スケジューラーを見付けるには、次のようにします。

1. 「マネージメント・セントラル」を展開します。
2. iSeries ナビゲーターが新しいコンポーネントを検出したことを示すメッセージが表示されたら、「すぐにスキャン」をクリックします。このメッセージは、「使用する接続」からシステムにアクセスする際にも表示されることがあります。
3. 次のように展開します。「使用する接続」 → 拡張ジョブ・スケジューラーがインストールされている iSeries サーバー → 「実行管理機能」 → 「拡張ジョブ・スケジューラー」。

拡張ジョブ・スケジューラーに関する以上の準備作業を終えたなら、拡張ジョブ・スケジューラーのカスタマイズを始めることができます。別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーを参照してください。

拡張ジョブ・スケジューラーのカスタマイズ

拡張ジョブ・スケジューラーをカスタマイズするには、以下の中からタスクを選択して実行してください。

- **一般プロパティを割り当てる**
拡張ジョブ・スケジューラーの活動およびログ項目を保存する期間と、ジョブの実行を許可しない期間を指定します。ジョブが処理を行う作業日と、各スケジュール済みジョブにアプリケーションが必要かどうかを指定できます。ポケットベル対応製品がインストールされているなら、ジョブが完了または失敗したときにポケットベル・メッセージを送るのに使用されるコマンドをセットアップすることもできます。
- **アプリケーション / ジョブ制御を作成して処理する**
アプリケーションとは、処理するためにグループ化されたジョブのことです。アプリケーションは、ジョブ・グループよりも幅が広く、必ずしも順次に処理されるわけではありません。アプリケーション内のジョブは同時に処理でき、あるジョブは別のジョブが処理されるのを待つ必要はありません。アプリ

ケーション内のすべてのジョブは、協業することができ、ジョブのデフォルトの独自のセットを持つことができます。ジョブ制御は、ジョブをジョブ・スケジューラーに追加するときにジョブに割り当てられるデフォルトで、ジョブが発行される際に使用されるデフォルトでもあります。

- **予定表のセットアップ**

ジョブまたはジョブ・グループをスケジューリングするために、予定表をセットアップします。この予定表は、ジョブをスケジューリングするために使用する日付を指定することもできますし、他の予定表と一緒に使用することもできます。

- **休日予定表をセットアップする**

ジョブの処理を許可しない日付の予定表をセットアップします。それぞれの例外日の代替日を指定することもできますし、その日の処理を完全にスキップすることもできます。休日予定表をスケジュール済みジョブに追加することもできます。

- **ライブラリー・リストの処理**

ライブラリー・リストは、ジョブの処理中に拡張ジョブ・スケジューラーが使用するライブラリーのユーザー定義リストです。

- **コマンド変数の処理**

コマンド変数 (以前はパラメーターとも呼ばれていた) は、拡張ジョブ・スケジューラーを介して発行されるジョブに保管して使用できる変数です。コマンド変数の例としては、各月の開始日、部門番号、会社番号などがあります。

これらのプロパティーや他のプロパティーの詳細については、iSeries ナビゲーターで拡張ジョブ・スケジューラーのオンライン・ヘルプを参照してください。拡張ジョブ・スケジューラーに関する以上の準備作業を終えたなら、ジョブのスケジュールを始めることができます。別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーを参照してください。

拡張ジョブ・スケジューラーの一般プロパティーの割り当て: 拡張ジョブ・スケジューラーが使用する一般プロパティーを割り当てます。ジョブの活動記録を保存する期間と、ジョブの実行を許可しない期間を指定します。ジョブが処理できる作業日と、各発行済みジョブにアプリケーションが必要かどうかを指定できます。ジョブの終了時にポケットベル呼び出し (メッセージ) を受信できるポケットベル対応製品をインストールすることができます。ジョブが完了または失敗したときにポケットベル呼び出しを送信するポケットベル呼び出しコマンドを定義できます。

拡張ジョブ・スケジューラーの一般プロパティーをセットアップするには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「**実行管理機能**」を展開します。
2. 「**拡張ジョブ・スケジューラー**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**プロパティー**」を選択します。
3. 「**活動保持期間 (Activity Retention)**」を指定します。活動保持期間は、ジョブの活動記録を保存する期間です。有効値は 1 ~ 999 日または 1 ~ 999 回です。活動を特定の日数に渡って保持する場合は「**日数 (Days)**」をクリックし、活動をジョブ当たりの特定の出現回数に渡って保持する場合は「**ジョブ当たりの回数 (Occurrences per job)**」をクリックします。
4. 「**ログ保持期間 (Log retention)**」を選択します。ログ保持期間は、拡張ジョブ・スケジューラーのログ項目を保存する期間を日数で指定します。
5. 「**予約済み期間 (Reserved period)**」を指定することもできます。ジョブは、この期間中には実行されません。
6. リストから作業日を指定します。日を選択する場合は、作業日として指定され、ジョブをスケジュールするときに参照されます。
7. 「**スケジュール済みジョブにアプリケーションが必要 (Application required for scheduled job)**」をクリックして、各スケジュール済みジョブにアプリケーションが必要かどうかを指定します。

アプリケーションとは、処理するためにグループ化されているジョブのことです。既存のジョブにアプリケーションが含まれていない場合は、これを選択することはできません。

8. 「開始時刻を定期頻度にする (Base periodic frequency on start time)」をクリックして、次の実行時刻を、定期的に実行されるようスケジュールされているジョブの開始時刻に合わせます。たとえば、ジョブを 8:00 AM から始めて 30 分ごとに実行します。(ジョブを丸 1 日実行するには、7:59 AM を終了時刻として指定します。) ジョブは、合計 20 分実行されます。このフィールドをチェックすると、ジョブは、8:00 AM、8:30 AM、9:00 AM、以下同様に実行されます。このフィールドをチェックしないと、ジョブは、8:00 AM、8:50 AM、9:40 AM、10:30 AM、以下同様に実行されます。
9. ポケットベル呼び出しコマンドの値を指定することもできます。このステップが関係するのは、ポケットベル対応製品がインストールされている場合だけです。ポケットベル呼び出しコマンドは、ポケットベル対応ソフトウェアによって指定され、指定する宛先にポケット・ベル・メッセージを送信するのに使用されます。指定するコマンドは、ジョブのスケジュール済みの項目が正常完了したか異常終了した場合に、ポケットベル・メッセージを送信するために使用されます。

特定のジョブにアプリケーションが必要であると選択する場合は、アプリケーションの処理に進んでください。ジョブにアプリケーションが必要でない場合は、予定表のセットアップに進むか、拡張ジョブ・スケジューラーのカスタマイズを参照して、別のタスクを選択します。

拡張ジョブ・スケジューラー用のアプリケーション / ジョブ制御の作成と処理: アプリケーションとは、処理するためにグループ化されているジョブのことです。たとえば、給与計算に使う一連のジョブは、会計処理のために 1 つにまとめることが望ましいでしょう。

ジョブ制御は、ジョブをジョブ・スケジューラーに追加するときジョブに割り当てられるデフォルトで、ジョブが発行される際に使用されるデフォルトでもあります。ジョブ制御のデフォルトには、予定表、休日予定表、ジョブ・キュー、ジョブ記述などが含まれています。

すべての既存アプリケーション / ジョブ制御を、ご使用のシステムに表示することができます。新規アプリケーション / ジョブ制御の追加、既存アプリケーション / ジョブ制御を基にした新規アプリケーション / ジョブ制御の追加、またはアプリケーション / ジョブ制御の削除を行うことができます。変更を行う場合も、アプリケーション / ジョブ制御を選択し、そのプロパティーを表示して行います。

新規アプリケーション / ジョブ制御を作成するには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「実行管理機能」を展開します。
2. 「拡張ジョブ・スケジューラー」を右マウス・ボタン・クリックして、「プロパティー」を選択します。
3. 「アプリケーション / ジョブ制御 (Applications/Job Controls)」タブをクリックします。
4. 「新規 (New)」をクリックし、アプリケーションの名前を入力します。
5. そのアプリケーションについての説明を入力することができます。
6. アプリケーションの連絡先を選択します。
連絡先は、そのアプリケーションのジョブに問題があった場合に連絡するユーザーの名前です。アプリケーションあたり最大 5 件までの連絡先を指定することができます。連絡先リストへの連絡先の追加または削除を選択することもできます。
7. アプリケーションの識別に便利のように追加情報を入力することができます。
情報は新規アプリケーションに関連するものです。この情報は、何か問題が発生したときに役立つことがあります。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーのカスタマイズを参照してください。

拡張ジョブ・スケジューラーの予定表のセットアップ: スケジューリング予定表は、ジョブまたはジョブ・グループのスケジューリングに使用する日を選択した予定表です。スケジューリング予定表の表示、新しいスケジューリング予定表の追加、既存のものを基にした新しいスケジューリング予定表の追加、あるいは現行のスケジュール済みジョブが使用中でなければ既存予定表の削除を行うことができます。

変更を行う場合は、予定表を選択し、そのプロパティーを表示して行います。予定表を選択するとき、予定表の詳細が「詳細」の下に表示されます。

スケジューリング予定表をセットアップするには、次のようにします。

1. 「**iSeries ナビゲーター**」ウィンドウから、「**実行管理機能**」を開きます。
2. 「**拡張ジョブ・スケジューラー**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**プロパティー**」を選択します。
3. 「**スケジューリング予定表**」タブをクリックします。
4. 「**新規 (New)**」をクリックし、予定表の名前を入力します。
5. その予定表についての説明を入力することができます。
6. 該当する場合は「**参照予定表**」を選択します。
これはすでにセットアップされている予定表で、そのプロパティーが新しい予定表に適用されて、あたかも 2 つの予定表を組み合わせたかのようになります。拡張ジョブ・スケジューラーを始めてご使用になる場合は、参照予定表はありません。
7. 予定表に組み込む日付を選択します。
予定表に別の日付を追加することができますが、その場合はその前に、選択した日付ごとに現在の年か、または毎年かを指定する必要があります。それを行わないと、どの日付を選択しても、別の日付をクリックすると選択が解除されてしまいます。
8. 予定表に組み込みたい特定の曜日があれば指定します。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーのカスタマイズを参照してください。

拡張ジョブ・スケジューラーの休日予定表のセットアップ: 休日予定表は、拡張ジョブ・スケジューラーのジョブを処理しない日を示す例外予定表です。休日予定表で指定する例外日ごとに代替日を指定することができます。休日予定表の表示、新しい休日予定表の追加、既存のものを基にした新しい休日予定表の追加、あるいは現行のスケジュール済みジョブが使用中でなければ既存予定表の削除を行うことができます。

事前定義スケジュールは休日予定表で使用できます。毎月の第 3 金曜日という頻度の THIRDFRI というスケジュールを作成できるかもしれません。休日予定表で THIRDFRI を使用する場合、この休日予定表を使用するすべてのジョブは毎月の第 3 金曜日には実行されません。1 つ以上のスケジュールを休日予定表で使用できます。スケジュールによって生成された日付は、黒枠で囲まれてカレンダーに表示されます。

変更を行う場合は、予定表を選択し、そのプロパティーを表示して行います。予定表を選択するとき、予定表の詳細が「詳細」の下に表示されます。

休日予定表をセットアップする

休日予定表をセットアップするには、次のようにします。

1. 「**iSeries ナビゲーター**」ウィンドウから、「**実行管理機能**」を展開します。
2. 「**拡張ジョブ・スケジューラー**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**プロパティー**」を選択します。
3. 「**休日予定表**」タブをクリックします。
4. 「**新規 (New)**」をクリックし、予定表の名前を入力します。

5. その予定表についての説明を入力することができます。
6. 該当する場合は「**参照予定表**」を選択します。
これはすでにセットアップされている予定表で、そのプロパティーが新しい予定表に適用されて、あたかも 2 つの予定表を組み合わせたかのようになります。拡張ジョブ・スケジューラーを始めてご使用になる場合は、参照予定表はありません。
7. 予定表に組み込む日付を選択します。
予定表に別の日付を追加することができますが、その場合はその前に、選択した日付ごとに現在の年か、または毎年かを指定する必要があります。それを行わないと、どの日付を選択しても、別の日付をクリックすると選択が解除されてしまいます。
8. ジョブを実行する代替日を選択します。前の作業日、次の作業日、特定の日付を選択することができますし、また何も選択しないこともできます。特定の日付を選択するには、「**代替日の指定 (Specific alternate date)**」をクリックして日付を入力します。
9. 予定表に組み込む特定の曜日を選択します。

休日予定表にスケジュールを追加する

休日予定表をスケジュール済みジョブに追加するには、次のようにします。

1. 「**iSeries ナビゲーター**」ウィンドウから、「**実行管理機能**」を展開します。
2. 「**拡張ジョブ・スケジューラー**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**プロパティー**」を選択します。
3. 「**休日予定表**」タブをクリックします。
4. 休日予定表を選択して「**プロパティー**」をクリックします。
5. タブの左下にある、「**スケジュール (Schedules)**」をクリックします。
6. 該当するスケジュールを選択して「**追加**」をクリックします。
7. 「**代替日 (Alternate day)**」を変更するため、「**選択済みスケジュール (Selected Schedules)**」リストからスケジュールを右マウス・ボタン・クリックして適切な「**代替日 (Alternate Day)**」を選択します。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーのカスタマイズを参照してください。

拡張ジョブ・スケジューラーのライブラリー・リストの処理: ライブラリー・リストはユーザー定義のライブラリーのリストで、拡張ジョブ・スケジューラーのジョブが、処理中に必要な情報を検索する際に使用します。ライブラリー・リストの表示、新しいライブラリー・リストの追加、既存のものを基にした新しいライブラリー・リストの追加、あるいは現行のスケジュール済みジョブが使用中でなければライブラリー・リストの削除を行うことができます。

変更を行う場合は、リストを選択し、そのプロパティーを表示して行います。ライブラリー・リストには最大 250 ライブラリーまで入れることができます。

新規のライブラリー・リストを追加するには、次のようにします。

1. 「**iSeries ナビゲーター**」ウィンドウから、「**実行管理機能**」を開きます。
2. 「**拡張ジョブ・スケジューラー**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**プロパティー**」を選択します。
3. 「**ライブラリー・リスト**」タブをクリックします。
4. 「**新規 (New)**」をクリックし、ライブラリー・リストの名前を入力します。
5. そのライブラリー・リストについての説明を入力することができます。

6. 「参照」をクリックして既存のライブラリーのリストを表示し、ライブラリーを選択します。
7. 「追加」をクリックして、選択したライブラリーのリストを追加します。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーのカスタマイズを参照してください。

拡張ジョブ・スケジューラーのコマンド変数の処理: コマンド変数 (以前はパラメーターと呼ばれていました) は、拡張ジョブ・スケジューラーに保管し、拡張ジョブ・スケジューラーを通して発行されるジョブで使用される変数です。コマンド変数には、スケジュール済みジョブのコマンド・ストリング内部で置き換えられる情報が含まれています。コマンド変数の例としては、各月の開始日、会社の部門番号、会社番号などがあります。コマンド変数の表示、新しいコマンド変数の追加、既存のものを基にした新しいコマンド変数の追加、あるいはスケジュール済みジョブが現行で使用中でなければコマンド変数の削除を行うことができます。

変更を行う場合は、既存のコマンド変数を選択し、そのプロパティーを表示して行います。

新規のコマンド変数を追加するには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「実行管理機能」を開きます。
2. 「拡張ジョブ・スケジューラー」を右マウス・ボタン・クリックして、「プロパティー」を選択します。
3. 「コマンド変数」タブをクリックします。
4. 「新規 (New)」をクリックし、コマンド変数の名前を入力します。
5. そのコマンド変数についての説明を入力することができます。
6. コマンド変数の長さを入力します。長さは 1 ~ 90 の範囲をとることができます。
7. 置き換え値を指定する方法を選択します。
 - a. コマンド変数に使用するデータを指定します。このフィールドには任意の文字を使用することができます。データの文字数は、長さフィールドで指定した長さを超えることはできません。
 - b. データを計算する公式を入力します。(オンライン・ヘルプにある例を参照してください。)
 - c. 置き換え値を検索する際に使用するプログラム名を入力します。
 - d. 置き換え値を検索する際に使用するライブラリーを入力します。
 - e. 実行時にシステム・オペレーターから取得される置き換え値が必要かどうかを選択します。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーのカスタマイズを参照してください。

拡張ジョブ・スケジューラーによるジョブのスケジュール

以下の情報は、ジョブを作成し、スケジュールリングして処理する際に拡張ジョブ・スケジューラーを管理するのに役立ちます。

• ジョブの作成およびスケジュール

ジョブをスケジュールして、ジョブに関連するコマンドを指定します。開始および終了コマンドを指定して、特別なスケジュール・ジョブを実行することもできます。

• ジョブ・グループの作成とスケジュール

指定した順序で引き続いて実行される一連のジョブをセットアップしてスケジュールします。ジョブ・グループ内のジョブは、次のジョブが処理のために発行される前に完了している必要があります。

• 一時的にスケジュールされるジョブの作成

通常のスケジュールに加え、スケジュール済みジョブをその時点でまたは後ほど実行します。

• 事前定義スケジュールの作成

ジョブをスケジュールするまたは休日予定表の例外日を計算するのに必要な情報を含むスケジュールを作成します。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーを参照してください。

スケジュールした時間にジョブが実行されない場合、原因を見い出すために特定の分野をトラブルシューティングできます。

ジョブの作成およびスケジュール: 新規のスケジュール済みジョブを作成してスケジュールするには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「**実行管理機能**」を開きます。
2. 「**拡張ジョブ・スケジューラー**」を右マウス・ボタン・クリックします。
3. 「**スケジュール済みジョブ**」を右マウス・ボタン・クリックして「**新しいスケジュール済みジョブ (New Scheduled Job)**」を選択します。

新しいジョブの詳細を入力する際の詳細は、オンライン・ヘルプを参照してください。別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーによるジョブのスケジュールまたは拡張ジョブ・スケジューラーを参照してください。

ジョブ・グループの作成およびスケジュール: ジョブ・グループは、1 つにまとめられて指定した順序で連続的に実行される複数ジョブです。それぞれのジョブが正常に完了しなければ、グループ中の次のジョブの処理はサブミットされません。グループ中のいずれかのジョブが正常に完了しない場合は、そのグループの処理は停止します。

新規のジョブ・グループを作成してスケジュールするには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「**実行管理機能**」を開きます。
2. 「**拡張ジョブ・スケジューラー**」を右マウス・ボタン・クリックします。
3. 「**ジョブ・グループ**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**新しいジョブ・グループ**」を選択します。

新しいジョブ・グループの詳細を入力する際の詳細は、オンライン・ヘルプを参照してください。別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーによるジョブのスケジュールを参照してください。

一時的にスケジュールされるジョブの作成: 通常スケジュールに加え、スケジュール済みジョブをその時点でまたは後ほど実行することが必要な場合があります。「ジョブの処理 (Work with Jobs)」画面からオプション、ジョブ・スケジューラー (SBMJOBJS) コマンドを使用するか、または iSeries ナビゲーターから「**実行 (Run)**」オプションを使用します。この特殊な実行をセットアップする際には、コマンド・リストの一部のコマンドだけを処理する必要もあるかもしれません。

SBMJOBJS コマンドによって、開始および終了コマンドの順序を指定できます。例えば、JOBA には 5 つのコマンドがあり、10 から 50 の順序があります。順序 20 で開始して順序 40 で終了するよう SBMJOBJS コマンドで指定できます。これにより順序 10 および 50 がバイパスされます。

iSeries ナビゲーターによって、コマンド・リストのコマンドの開始およびコマンドの終了を選択できます。

iSeries ナビゲーターによって特別なスケジュール済みジョブを実行するには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「**実行管理機能**」を開きます。
2. 「**拡張ジョブ・スケジューラー**」を右マウス・ボタン・クリックします。

3. 「スケジュール済みジョブ」をクリックしてジョブをリストします。
4. スケジュール済みジョブを右マウス・ボタン・クリックして、「実行 (Run)」を選択します。
5. ジョブをその時点でまたは後ほど実行するかを指定します。
6. 開始および終了コマンドを選択します。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーによるジョブのスケジュールを参照してください。

事前定義スケジュールの作成: ジョブをスケジュールする、または休日予定表の例外日を計算するのに必要な情報を含むスケジュールを作成できます。

例えば、任意の追加の予定表と共に、特定の曜日に実行する ENDOFWEEK スケジュールを作成できます。それで、ENDOFWEEK スケジュールはスケジューリングの頻度が一致するすべてのジョブによって使用できます。iSeries ナビゲーターを通してのみこの機能にアクセスできます。

あるジョブで使用されるこうした同じ事前定義スケジュールを、休日予定表と共に使用することができます。毎月の第 3 金曜日という頻度の THIRDFRI というスケジュールを作成できます。休日予定表で THIRDFRI を使用する場合、この休日予定表を使用するすべてのジョブは毎月の第 3 金曜日には実行されません。1 つ以上のスケジュールを休日予定表で使用できます。このスケジュールによって生成された日付は、黒枠で囲まれてカレンダーに表示されます。

スケジュールをセットアップするには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「実行管理機能」を展開します。
2. 「拡張ジョブ・スケジューラー」を右マウス・ボタン・クリックして、「プロパティ」を選択します。
3. 「スケジュール (Schedules)」タブをクリックします。
4. 「新規 (New)」をクリックして予定表の名前を入力します。
5. そのスケジュールについての説明を入力することができます。
6. スケジュールおよび任意の追加の予定表に含める頻度および日付を選択します。

新しいスケジュールの詳細を入力する際の詳細は、オンライン・ヘルプを参照してください。

スケジュールをスケジュール済みジョブに追加するには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「実行管理機能」を開きます。
2. 「拡張ジョブ・スケジューラー」を右マウス・ボタン・クリックします。
3. 「スケジュール済みジョブ」をクリックしてジョブをリストします。
4. スケジュール済みジョブを右マウス・ボタン・クリックし、「プロパティ」を選択します。
5. 「スケジュール」タブをクリックします。
6. タブの右上から、該当するスケジュール・オプションを選択します。

スケジュールを休日予定表に追加するには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「実行管理機能」を展開します。
2. 「拡張ジョブ・スケジューラー」を右マウス・ボタン・クリックして、「プロパティ」を選択します。
3. 「休日予定表」タブをクリックします。
4. 休日予定表を選択して「プロパティ」をクリックします。

5. タブの左下にある、「スケジュール (Schedules)」をクリックします。
6. 該当するスケジュールを選択して「追加」をクリックします。
7. 「代替日 (Alternate day)」を変更するため、「選択済みスケジュール (Selected Schedules)」リストからスケジュールを右マウス・ボタン・クリックして適切な「代替日 (Alternate Day)」を選択します。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーによるジョブのスケジュールを参照してください。

ジョブの従属関係

拡張ジョブ・スケジューラーにより、ご使用の環境でのジョブの処理方法を反映する従属関係をセットアップすることができます。従属関係で、ジョブまたはジョブのグループをいつ実行できるかが決まります。すべての従属関係が適合してからジョブを実行するように選択することができますし、あるいは少なくとも 1 つの従属関係が適合してからジョブを実行するようにすることができます。従属関係には以下のものがあります。

- **ジョブの従属関係**

ジョブの従属関係は、ジョブに対する先行および後続の関係になります。先行ジョブは、後続ジョブが実行される前に実行される必要のあるジョブです。後続ジョブは、すべての先行ジョブの処理が行われた後に実行されるジョブです。単一の後続ジョブに対して先行ジョブを複数にできるのと同様、単一の先行ジョブに対して後続ジョブを複数にすることができます。

- **活動状態の従属関係**

活動状態の従属関係は、選択されたジョブが発行されるときに活動状態になれないジョブのリストです。いずれかのジョブが活動状態の場合は、拡張ジョブ・スケジューラーは指定したジョブを実行させません。選択されたジョブは、リストのジョブがすべて非活動になるまで遅延されることとなります。

- **リソースの従属関係**

リソースの従属関係は幾つかの事柄に依存しています。以下の各タイプは、検査される領域について記述しています。リソースの従属関係には、以下のタイプがあります。

ファイル

このジョブは、ファイルがあるかないか、および実行するための指定された割り振りレベルを満たしているかどうか依存しています。さらにジョブが処理される前にレコードが存在するかどうかを検査できます。例えば、ファイル ABC が存在し、そのファイルが排他的に割り振られており、かつレコードがそのファイルにある場合にのみ実行するよう JOBA をセットアップできます。

オブジェクト

このジョブは、オブジェクトがあるかないか、および実行するための指定された割り振りレベルを満たしているかどうか依存しています。例えば、データ領域 XYZ が存在する場合にのみ実行するよう JOBA をセットアップできます。

ハードウェア構成

このジョブは、ハードウェア構成が存在するかないか、および実行するための状況に依存しています。例えば、装置 TAP01 が存在し、使用可能な状況にある場合にのみ実行するよう JOBA をセットアップできます。

ネットワーク・ファイル

ジョブが処理されるのはネットワーク・ファイルの状況に依存します。

サブシステム

ジョブが処理されるのはサブシステムの状況に依存します。

ジョブの従属関係を処理するには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「実行管理機能」を開きます。
2. 「拡張ジョブ・スケジューラー」を展開します。
3. 「スケジュール済みジョブ」をクリックします。
4. 従属関係を処理する「ジョブ名」を右マウス・ボタン・クリックします。
5. 次のいずれかを選択します。「ジョブの従属関係」、「活動状態の従属関係 (Active Dependencies)」または「リソースの従属関係 (Resource Dependencies)」。詳しくはオンライン・ヘルプを参照してください。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーを参照してください。

拡張ジョブ・スケジューラーのジョブ活動のモニター

拡張ジョブ・スケジューラーを使用してジョブ活動を表示することができます。次のように行います。

スケジュール済みジョブの活動

スケジュール済みジョブの活動では、拡張ジョブ・スケジューラーの活動記録の保存期間の長さを指定することができます。有効値は 1 ~ 999 日または 1 ~ 999 回です。特定の日数、またはジョブあたりの特定回数の間、活動を保持するように指定することができます。スケジュール済みジョブについての詳細が次のように表示されます。

- 名前
スケジュール済みジョブの名前。
- グループ
ジョブのジョブ・グループの名前。
- 順序
ジョブがジョブ・グループにある場合の、グループ内のジョブの順序番号。
- 完了状況
ジョブの状況。
- 開始済み
ジョブがいつ実行を開始したかを示します。
- 終了済み
ジョブがいつ終了したかを示します。
- 経過時間
ジョブを処理するのに必要な合計時間 (時間と分)。

活動の保持期間を指定するには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「実行管理機能」を開きます。
2. 「拡張ジョブ・スケジューラー」を展開します。
3. 「スケジュール済みジョブの活動 (Scheduled Job Activity)」を右マウス・ボタン・クリックして、「プロパティ」を選択します。

スケジュール済みジョブの活動の詳細を表示するには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「実行管理機能」を開きます。
2. 「拡張ジョブ・スケジューラー」を展開します。
3. 「スケジュール済みジョブの活動 (Scheduled Job Activity)」をダブルクリックします。

特定のジョブのスケジュール済みジョブの活動の詳細を表示するには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「実行管理機能」を開きます。
2. 「拡張ジョブ・スケジューラー」を展開します。
3. 「スケジュール済みジョブ」をクリックします。
4. 表示する活動の「ジョブ名」を右マウス・ボタン・クリックし、「活動」を選択します。

活動ログ

活動ログでは、追加、変更、あるいは発行されたジョブなどのスケジューラー内の活動を表示します。セキュリティー違反、スケジュール済みジョブによって処理された順序、および受信されたエラーが表示されます。前の活動の日付と時刻も表示されます。詳細なメッセージ情報を表示するには、日付および時刻をダブルクリックします。

活動ログの詳細を表示するには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「実行管理機能」を開きます。
2. 「拡張ジョブ・スケジューラー」を展開します。
3. 「活動ログ」をクリックします。現行日付の項目が表示されます。選択基準を変更するには、オプション・メニューから「組み込み」を選択します。

特定のジョブの活動ログを表示するには、次のようにします。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「実行管理機能」を開きます。
2. 「拡張ジョブ・スケジューラー」を展開します。
3. 「スケジュール済みジョブ」をクリックします。
4. 表示する活動ログの「ジョブ名」を右マウス・ボタン・クリックし、「活動ログ」を選択します。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーを参照してください。

拡張ジョブ・スケジューラーによるメッセージのモニター

ジョブのコマンド・リストの各コマンドは、モニターに使用されるメッセージ ID を持つことができます。ジョブを実行して、選択されたコマンド用に入力されたメッセージの 1 つと一致するエラー・メッセージが発行される場合、ジョブはそのエラーをログに記録しますが、リストの次のコマンドを処理し続けます。

ppmm00 のように、右端から 2 つまたは 4 つすべてにゼロが指定されている場合、汎用メッセージ ID が指定されます。例えば CPF0000 が指定される場合、CPF メッセージがモニターされます。

メッセージ ID をコマンドに追加するには、以下のステップを実行します。

1. 「iSeries ナビゲーター」ウィンドウから、「実行管理機能」を開きます。
2. 「拡張ジョブ・スケジューラー」を右マウス・ボタン・クリックします。
3. 「スケジュール済みジョブ」をクリックしてジョブをリストします。
4. スケジュール済みジョブを右マウス・ボタン・クリックし、「プロパティ」を選択します。
5. リストからコマンドを選択して、「プロパティ」をクリックします。
6. 「メッセージ」をクリックします。
7. モニターするためのメッセージ ID を入力し、「追加」をクリックします。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーを参照してください。

拡張ジョブ・スケジューラーのトラブルシューティング

以下は、ジョブがスケジュールされた時刻に実行されない場合に検討できる項目のリストです。

最新の修正レベル

最初に確認すべき事柄は、修正が最新のものであることです。修正を要求する際に、すべての修正のリストを要求してください。累積パッケージ (cumulative packages) には、すべての修正は含まれていません。

ジョブ・モニターのチェック

- ジョブ QIJSJCD は QSYSWRK サブシステムで活動状態になければなりません。活動状態にない場合、STRJS コマンドを処理します。
- 10 分以上ジョブの状況が「実行 (RUN)」の場合には、ジョブ・モニターがループに入っている可能性があります。ループに入っている場合、*IMMED を使用してジョブを終了してから、ジョブ・モニターを再び開始します (STRJS コマンド)。
- 応答のメッセージが出る場合、C (キャンセル(Cancel)) で応じます。ジョブ・モニターは 90 秒間の遅延に入り、その後、再びモニターを開始します。モニター・ジョブのジョブ・ログを印刷します。これにはエラー・メッセージが含まれます。

拡張ジョブ・スケジューラー・ログのチェック

ジョブに対して DSPLOGJS コマンドを実行します。F18 を押し、リストの末尾に移動します。ジョブが実行しなかった理由を説明する項目が現れます。項目の例としては、リソースの障害、活動またはジョブ従属関係の状態、または発行エラーなどがあります。

別のジョブとの従属関係

ジョブが別のジョブに従属している場合、「ジョブの処理 (Work with Jobs)」ディスプレイからオプション 10 を選択してジョブの従属関係を表示します。F8 を押すと、すべての先行ジョブがリストされます。従属関係にあるジョブは、すべての先行ジョブの「完了 (Complete)」欄に *YES が表示されるまでは実行できません。

こうしたデータのサンプルを収集しておくこと、問題分析に役立ちます。

エラー・メッセージの状態

エラーが発生した場所に応じて、対話式セッション、モニター・ジョブ、またはスケジュール済みジョブのジョブ・ログを印刷します。

ジョブ・スケジュール日付が正しくない

OUTPUT(*PRINT) を使用して DSPJOBJS コマンドをジョブに実行します。ジョブで予定表が使用されている場合には、予定表の報告を印刷します。ジョブで休日予定表が使用されているなら、休日予定表の報告を印刷します。会計予定表がジョブで使用されている場合、「印刷 (Print)」キーを押して各会計予定表の表示を印刷します。

拡張ジョブ・スケジューラー・ログ

質問するときのために、拡張ジョブ・スケジューラー・ログを必ず印刷してください。

QAIJSMST および QAIJSHST ファイル

問題を再現してみる前に、QUSRIJS ライブラリーの QAIJSMST および QAIJSHST ファイルをジャーナルすることが必要かもしれません。さらに QUSRIJS ライブラリーは、IBM サポートでも必要とされる可能性があります。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーを参照してください。

拡張ジョブ・スケジューラーの OS/400 スケジューラーとの比較

ジョブ・スケジューラー製品を選択する際に求める機能は、以下の通りです。

ジョブのスケジューリングの自動化

- ジョブのスケジューリングにおける柔軟性
- 設定したスケジュールに完全に従い、1 日に 24 時間、1 週間に 7 日、不在 (または在席) ジョブ処理ができること
- iSeries オペレーティング・システムの拡張性がもともと備わっていること
- ジョブの発行の方法、タイミング、場所を完全に制御できること
- オブジェクト (物理ファイル内に存在するファイルまたはレコード) 、他のジョブの活動または非活動、回線、コントローラー、サブシステムの状態など、広範囲に及ぶジョブの従属関係
- 会計および休日予定表を含む、予定表作成の完全な機能
- 1 日に複数のジョブを実行できること

システムおよびユーザー定義のパラメーター

- 現在日付、発行日付、前日の日付、および現在時刻をアプリケーション・プログラムに渡すことができる
- ユーザー定義のパラメーター値を作成、変更、およびアプリケーション・プログラムに渡すことが可能

作業負荷 / ヒストリーの予測

- 翌週、翌月、または翌日に実行される、すべてのスケジュール済みジョブを予測する
- 本番の要件を最適化する
- 拡張ジョブ・スケジューラーのすべての活動のヒストリーの追跡およびロギング

ネットワーク管理

- ジョブがネットワーク内の任意の iSeries サーバーにセットアップでき、ネットワークの他の任意の iSeries サーバーで実行できること
- 発行システムでジョブの完全なジョブ・ヒストリーを提供する
- グループおよび従属関係にあるジョブは、ネットワークを通して発行できる

配布および管理の報告

- 経路指定、モニター、およびすべての出力の制御に関する報告は、拡張ジョブ・スケジューラーまたは OS/400 オペレーティング・システムによって生成される
- 複数の出力キューまたはオプションのバナー・ページのあるリモート・システムへの、スプール・ファイルの配布
- スプール出力が、iSeries ネットワークの任意のユーザーに複製または送信できる

セキュリティ


- 既存の iSeries セキュリティーは、拡張ジョブ・スケジューラーで使用できるかもしれない
- スケジュール済みジョブに関する情報をセットアップまたは変更する権限のある、組織内の人物を指定する
- 権限は拡張ジョブ・スケジューラーの個別の機能または特定のジョブに対して指定できる

グラフィカル・ユーザー・インターフェース

- ジョブをスケジュールする際のポイント・アンド・クリック機能
- ジョブの管理
- 従属関係の保守
- スケジューラーの活動の追跡および情報のログへの記録

他の重要な機能

- 1 つのジョブで複数のコマンドを実行する
- ジョブ LDA (内部データ域) の定義
- 制限状態でジョブを実行するためのコンソール・モニター
- 各ジョブの最大実行時間の検査
- メッセージ・ベースのサード・パーティーのページング・システムにインターフェースで直接接続する
- システム/36 プロシージャの発行およびモニター
- 各ジョブの完全なオンライン文書のプロビジョン
- 全画面での、カーソル移動で作動する広範囲なヘルプ・テキスト

比較情報については、Advanced Job Scheduler versus standard OS/400 scheduler  を参照してください。

別のタスクを選択するには、拡張ジョブ・スケジューラーを参照してください。

第 6 章 マネージメント・セントラルの関連情報

以下にリストされているのは、マネージメント・セントラルのトピックと関連する iSeries マニュアルおよび IBM レッドブック (IBM Redbooks™) (PDF 形式)、Web サイト、および Information Center (カテゴリまたは) トピックです。これらのリソースに加え、マネージメント・セントラルのタスクおよびトピックの詳細については、iSeries ナビゲーターの詳細なタスクのヘルプに見い出せます。メニュー・バーから「ヘルプ」をクリックして、「ヘルプ・トピック (Help Topics)」を選択します。「できること (What can I do with . . .?)」を選択し、行えること、およびそれを実行するには「iSeries ナビゲーター」ウィンドウのどこにいる必要があるかを調べます。

レッドブック

IBM International Technical Support Organization (ITSO) によって発行された以下のレッドブックを参照して、マネージメント・セントラルの詳しい情報を探してください。

- Managing AS/400 V4R4 with Operations Navigator 

オペレーション・ナビゲーターでは、OS/400 環境の構成、モニター、および管理に、Windows のようなグラフィカル・インターフェースを採用しています。この本は、AS/400 Client Access Express for Windows V4R4M0 に同梱される、AS/400 iSeries ナビゲーターのグラフィカル・インターフェースで使用可能な AS/400 の機能を、広範囲にわたって解説しています。AS/400 オペレーション・ナビゲーターのインターフェースと機能性についての適度なレベルの概説があり、オペレーション・ナビゲーターの機能を対応する OS/400 のコマンドの機能と相互に関係付けて、それらの機能の使用方法について多くの事例を使ってヒントを述べています。この資料は、AS/400 システムについて、いくつかのレベルの管理責任がある 2 通りの AS/400 ユーザーに役立つことを目的としています。すなわち、システム機能への OS/400 コマンド・レベル・インターフェースに精通しているユーザーと、OS/400 は初めてであるがシステム機能への Windows のようなグラフィカル・インターフェースに精通しているユーザーです。オペレーション・ナビゲーターは V5R2 では iSeries ナビゲーターという名前に変更されましたが、このレッドブックの V4R4 のレベルでの情報はマネージメント・セントラルの機能についての貴重な概説です。

- Management Central: A Smart Way to Manage AS/400 Systems 

マネージメント・セントラルの利点などが書かれています。マネージメント・セントラルはオペレーション・ナビゲーターのキー・コンポーネントであり、それによって AS/400 管理担当者は、TCP/IP ネットワークを介して相互接続されている複数の AS/400 システムを管理することができます。この本はいくつかの構成から成っており、システムのグループとそれらに関連したリソースの管理に役立ちます。このレッドブックでは、V4R4 で使用可能な機能のそれぞれの可能性を解説し、ネットワークでシステムを管理する方法としての、グラフィカル・ユーザー・インターフェースについて紹介しています。マウスのクリックでネットワークを管理することがいかに簡単かが分かります！


Web サイト

マネージメント・セントラルの詳細を知るために利用できる、様々な Web サイトがあります。以下の Web サイトが含まれます。

- iSeries Navigator 


マネージメント・セントラルの機能に加え、iSeries の管理を簡単にする広範囲に及ぶ様々なツールが iSeries ナビゲーターには備えられています。iSeries ナビゲーターのホーム・ページにアクセスして、機能的なリリースに関する概説、新しい技術的コンファレンス、および他の最新のトピックを含む、

iSeries ナビゲーターに関する情報をご覧ください。更新、機能に関する概説、FAQ などを含む様々な情報を得るため、マネージメント・セントラルへのリンクをクリックしてください。iSeries ナビゲーターのインストールとスタートアップについての情報は、Information Center の iSeries ナビゲーター のトピックを参照してください。

- iSeries Navigator for Wireless  マネージメント・セントラルの機能にアクセスします。iSeries ナビゲーター (ワイヤレス対応) のホーム・ページでは、パーベイシブ・コンピューティングの既知の問題に関する詳細が提供されています。このホーム・ページでは V4R5 および V5R1 リリースを扱っています。V5R2 に関する情報は、Information Center の iSeries ナビゲーター (ワイヤレス対応) トピックを参照してください。

PDF を表示用または印刷用の PDF ファイルを Netscape Navigator からワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. ブラウザーで PDF を開く (上記のリンクをクリックする)。
2. ブラウザーのメニューから「ファイル」をクリックする。
3. 「名前を付けて保存」をクリックする。(IE の場合は、フロッピーディスクのアイコン (名前を付けて保存)をクリックする。)
4. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
5. 「保存」をクリックする。

これらの PDF ファイルを表示または印刷するために、Adobe Acrobat Reader が必要な場合は、Adobe の Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)  からダウンロードできます。



Printed in Japan